

臨床研究・治験従事者研修 研究者養成研修カリキュラム

第1. 3版

2022年3月

臨床研究・治験従事者研修 研究者養成研修カリキュラムの解説

1. 本カリキュラムに用いている概念

2018年度革新的医療技術創出拠点プロジェクト、医療技術実用化総合促進事業、臨床研究・治験従事者等に対する研修を担当した、北海道大学病院、東北大学病院、国立がん研究センター東病院、東京大学医学部附属病院、慶應義塾大学病院、京都大学医学部附属病院、岡山大学病院、九州大学病院、大阪大学医学部附属病院が必要と考える研修内容をもとに、本カリキュラムを構成した。臨床研究・治験等に従事する医師・歯科医師等が習得すべきテーマを表記し、その概要及び達成目標を設定し、その上でテーマ毎のキーワードを示した。具体的な講義項目を示したうえで、ビギナー向けとオプションに分類し、教育方法と時間は、それらに基づいて打ち出されている。

2. 本カリキュラムの使い方

1) 本カリキュラムで想定した研修受講者について

本カリキュラムで想定した研修受講者は①医療機関において臨床研究・治験に係る業務を行っており、今後も継続して臨床研究・治験業務を遂行できる医師・歯科医師、②研究責任医師として数回程度の経験を有する者、または研究責任医師は未経験だが、これまで研究分担医師としての経験が複数回あり、今後責任者になろうと考えている者とする。これらの臨床研究・治験に従事する医師・歯科医師の研修をイメージし、研究担当医師・歯科医師として求められるスタンダードなレベルのスキルを習得する目的の研修を想定する。

2) 研修の目標及び内容について

この本カリキュラムの目標については、以下のとおりである。

- ①臨床研究・治験を分担した経験の少ない研究分担医師・歯科医師が医療機関において臨床研究・治験に係る業務を遂行するための基礎的な知識を習得する。
- ②臨床研究・治験を分担した経験のある研究分担医師・歯科医師が研究責任医師としての業務を遂行できる基礎知識を習得する。
- ③集合研修を必要とする項目については、実習により実務スキルを習得する。

個別に研修を実施する際には、個別のテーマごとに研修を実施することや、いくつかのテーマを組み合わせて実施するなど、その時に使用できる時間に応じて、設定することでのよい。また、必ずしも個別のテーマ毎に「講義」と「ワークショップ・演習」を独立して設定する必要はなく、使い分けは可能である。また、個別のテーマの「講義」あるいは「ワークショップ・演習」については、他テーマの複数の要素を含めて構成したり、内容

が重複しても差し支えない。

参照可能な e-learning 等のプログラムや目安のコマ数については、シラバスに記載した。e-learning 等のプログラムについては、理解度確認テスト等の併用がより学習効果を高めるものと考える。

3) 時間の設定

テーマ毎に「コマ数」でそれぞれのボリュームを示している。1 コマあたりの時間配分の設定は、研修を企画・運営する機関、団体等の検討に委ねるが、本カリキュラムは「1 コマ = 30 分」を目安として、作成したものである。実際の研修会における 1 コマあたりの時間配分の設定は、研修会の主催者に委ねる。テーマ毎の「講義」や「ワークショップ・演習」の時間配分の設定は、受講者の構成等を鑑み、柔軟な運用を可能とする。時間合計は各テーマの重み付けと解釈していただきて差し支えない。

この時間設定で、本カリキュラムに基づく臨床研究・治験に従事する医師・歯科医師等の養成のための研修プログラムを立案すると、全 38.5 コマのボリュームとなる。

本カリキュラムは、国立研究開発法人日本医療研究開発機構「革新的医療技術創出拠点プロジェクト 医療技術実用化総合促進事業 臨床研究・治験従事者等に対する研修プログラム 臨床研究・治験従事者研修」の補助を受けて作成された第1版をもとに、2019年度に厚生労働省「臨床研究総合促進事業 臨床研究・治験従事者等に対する研修プログラム 臨床研究・治験従事者研修」の補助を受けて第1.1版として作成され、年度毎に更新を行っている。以下に関係者を記す。

第1版：北海道大学病院（七戸秀夫）、東北大学病院（奈良正之*、清水恵、横山業子）、国立がん研究センター東病院（布施望、福谷美紀）、東京大学医学部附属病院（澁谷美穂子、小栗岳）、慶應義塾大学病院（中川敦夫、神山圭介、佐藤友佳）、京都大学医学部附属病院（南学）、岡山大学病院（難波志穂子、吉原久美子）、九州大学病院（井上博之、戸高浩司、船越公太）、大阪大学医学部附属病院（山本洋一、岩崎幸司、浅野健人）：とりまとめ拠点 *2018年12月時の所属

第1.1版：北海道大学病院（七戸秀夫）、東北大学病院（後藤貴章）、国立がん研究センター東病院（布施望、福谷美紀）、東京大学医学部附属病院（澁谷美穂子、小栗岳）、慶應義塾大学病院（中川敦夫、神山圭介、佐藤友佳）、京都大学医学部附属病院（南学）、岡山大学病院（難波志穂子、吉原久美子）、九州大学病院（井上博之、戸高浩司、船越公太）、大阪大学医学部附属病院（山本洋一、岩崎幸司、浅野健人）：とりまとめ拠点

第1.2版：北海道大学病院（七戸秀夫）、東北大学病院（後藤貴章）、千葉大学医学部附属病院（井上雅明、大久保真春）、国立がん研究センター東病院（布施望、福谷美紀）、東京大学医学部附属病院（澁谷美穂子、小栗岳）、慶應義塾大学病院（中川敦夫、神山圭介、佐藤友佳）、名古屋大学医学部附属病院（鶴田敏久、天野学）、京都大学医学部附属病院（南学、加藤貴雄）、九州大学病院（戸高浩司、船越公太）、大阪大学医学部附属病院（山本洋一、岩崎幸司、浅野健人）：とりまとめ拠点

第1.3版：北海道大学病院（七戸秀夫）、千葉大学医学部附属病院（井上雅明、大久保真春）、国立がん研究センター東病院（布施望、古谷秀樹）、東京大学医学部附属病院（澁谷美穂子、小栗岳）、順天堂大学医学部附属順天堂医院（藤林和俊）、慶應義塾大学病院（中川敦夫、神山圭介、佐藤友佳）、名古屋大学医学部附属病院（鶴田敏久、天野学）、京都大学医学部附属病院（加藤貴雄）、岡山大学病院（堀田 勝幸、難波 志穂子）、九州大学病院（戸高浩司、船越公太、篠原啓介）、大阪大学医学部附属病院（山本洋一、岩崎幸司、浅野健人）：とりまとめ拠点

No	カテゴリー	カテゴリーNo.	テーマ	概要	達成目標	Key Words	講義項目(Contents)	ピギー向け講義項目	オプション講義項目	E-learning、書籍等で身に着けられる知識	対面型の研修で特に注力して教えるべき知識	演習(ワークショップ)の必要有無及び必要な場合の内容	講義単位数
1	研究公正、研究倫理	1	被験者保護のための規制の正当性と歴史	現在の規制やガイドラインに影響を与えた歴史的な事件(第二次世界大戦中のドイツの人体実験、米国のタスキギー事件など)を紹介し、被験者保護の観点から、ニュルンベルク綱領、ヘルシンキ宣言、ベルモントレポートなどが制定された経緯について概説する。	受講者は、現在の規制やガイドラインに影響を与えた歴史的な事件を学び、被験者保護の観点から、ニュルンベルク綱領、ヘルシンキ宣言、ベルモントレポートなどが制定された経緯とその概要を理解する。	ニュルンベルク綱領、ヘルシンキ宣言、ベルモントレポート、被験者保護	①ニュルンベルク綱領、ヘルシンキ宣言 ②ベルモントレポート ③被験者保護	①ニュルンベルク綱領、ヘルシンキ宣言 ②ベルモントレポート ③被験者保護	—	・ニュルンベルク綱領、ヘルシンキ宣言 ・ベルモントレポート ・被験者保護	—	—	0.5
2	研究公正、研究倫理	1	インフォームド・コンセントと被験者の権利	被験者の権利尊重に基づくインフォームド・コンセントのあり方について解説する。特に、研究実施に伴って生じうる種々のリスクとベネフィットをふまえて、研究に関するすべての面について十分かつ平易に説明する必要があること、いつでも不利益を受けることなしに研究参加を取りやめることができること、社会的弱者、健康人、小児などの特別な配慮を必要とする集団を対象とする場合の代諾やインフォームド・アセントなど、インフォームド・コンセント、インフォームド・アセント、同意の代諾がなされることについて理解するとともに、実践できるようになる。	受講者は、被験者の権利を理解し、被験者の自由意思が最も尊重されることを学ぶ。研究においてもプラセボが必要となる場合も含めて様々な形態があることから、種々のリスクとベネフィットを踏まえて、適切なインフォームド・コンセント、インフォームド・アセント、同意の代諾がなされることについて理解するとともに、実践できるようになる。	インフォームド・コンセント、インフォームド・アセント、リスク&ベネフィット	①インフォームド・コンセント ②インフォームド・アセント ③リスク&ベネフィット	①インフォームド・コンセント ②インフォームド・アセント ③リスク&ベネフィット	—	・インフォームド・コンセント ・インフォームド・アセント ・リスク&ベネフィット	—	—	0.5
3	研究公正、研究倫理	1	臨床研究における研究不正と行動規範	臨床研究における行動規範をふまえ、研究不正とそれが疑われる行為についての定義を解説し、不正(捏造・改ざん・盗用)やそれらが疑われる事例を紹介することで理解を深めるようする。研究者が守るべき行動規範として、リサーチ・インテグリティ(研究公正)に取り組み、研究を進めていく重要性についても解説する。また、メンタリングの概念についても、ふれておく。	受講者は、臨床研究における行動規範をふまえ、研究不正とそれが疑われる行為について学び、実践できるようになる。	研究不正、過失、FFP、QRP、リサーチ・インテグリティ、メンタリング	①研究不正・過失(捏造・改ざん・盗用) ②研究倫理・行動規範	①研究不正・過失(捏造・改ざん・盗用) ②研究倫理・行動規範	—	・研究不正・過失(捏造・改ざん・盗用) ・研究倫理・行動規範	—	有 ・不正の及ぼす影響 ・不正への対応	1
4	研究公正、研究倫理	1	オーサーシップ、ICMJEガイドラインと各種論文報告ガイドライン	オーサーシップの概念から研究結果を報告する際に、著者には誰がふさわしいのか、報告の過程における透明性の確保が重要であることを解説する。これらを解説する過程で、ICMJEの統一投稿規程での定義され、議論されているかの経緯についてもふれ、その取扱いの重要性について解説する。研究が開始されるまでに臨床研究データベース登録を行い、研究終了後に結果を報告することの重要性や、研究の種類に応じた論文報告ガイドラインについても解説する。	受講者は、以下の目標を達成する。 ①オーサーシップの取り扱いの重要性を認識する。 ②著者の役割と責任、研究貢献者との違いを理解する。 ③研究開始前に、公開されたデータベースに臨床研究を登録し、研究終了後に研究結果を論文として報告する際の規定、研究の種類に応じたガイドラインについて理解する。	オーサーシップ、ICMJE、臨床試験登録、CONSORT声明、透明性	①オーサーシップ ②臨床試験登録 ③ICMJE統一投稿規定 ④研究の種類と各種ガイドライン	①オーサーシップ ②臨床試験登録 ③ICMJE統一投稿規定 ④研究の種類と各種ガイドライン	—	・オーサーシップ ・臨床試験登録 ・ICMJE統一投稿規定	・オーサーシップ ・ICMJE統一投稿規定	—	1
5	研究公正、研究倫理	1	利益相反、研究の透明性の確保	臨床研究における利益相反の概念について解説し、利益が相反した状態でどのように管理を行うことが可能なかについて解説する。利益相反の開示のありかたや、懸念される点についても解説を行う。	受講者は、以下の目標を達成する。 ①利益相反には何が含まれるのかを理解する。 ②利益相反管理、利益相反開示の必要性について理解する。 ③利益相反の管理方法、開示方法について理解する。	利益相反、利益相反管理	①利益相反とは ②利益相反の管理 ③利益相反の開示	①利益相反とは ②利益相反の管理 ③利益相反の開示	—	・利益相反とは ・利益相反の管理 ・利益相反の開示	・利益相反とは	—	1
6	研究公正、研究倫理	1	倫理審査委員会	臨床研究は、診療では解決できないことを解消することを目的として実施され、法規制に則って、倫理審査委員会等での審査を経て、実施の承認を得なければならないことを説明する。被験者の保護のあり方や、研究申請に際して、チェックされるべき事項、タイムスケジュールなどについても解説する。また、申請に先立ち、ビアレピューによる事前確認を受けておく必要性についてもふれる。 倫理審査委員会での審査・承認と合わせて、資金提供者との契約関連の手続きや書類の発生があることについても解説する。	受講者は、以下の目標を達成する。 ①倫理審査委員会の役割、構成について理解する。 ②各種法規制と倫理審査を行なう委員会について知る。 ③倫理審査委員会への提出書類および流れ、主な審査内容について理解する。	倫理審査委員会、人を対象とする倫理審査委員会の役割、構成 ②各種法規制と倫理審査委員会 ③倫理審査委員会の流れと審査内容	①倫理審査委員会の役割、構成 ②各種法規制と倫理審査委員会 ③倫理審査委員会の流れと審査内容	—	・倫理審査委員会の役割、構成 ・各種法規制と倫理審査委員会 ・倫理審査委員会の流れと審査内容	・各種法規制と倫理審査委員会	—	1	
7	規制、規制科学	2	臨床研究・治験に対する法的な枠組み	GCP、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(人を対象とする医学系研究に関する倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針)、臨床研究法、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する法規制について解説する。医薬品規制調和国際会議(ICH)により、ICH-GCPが制定され、アメリカ、日本、ヨーロッパ等の世界各国の規制の国際調和がなされていることについて解説する。	受講者は、以下の目標を達成する。 ①実施する臨床研究に対して適用される規制(薬機法と省令GCP、臨床研究法、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針等)を理解する。 ②ICHの目的、ICHガイドラインの概要について理解する。	GCP、人を対象とする生命科学系研究に関する倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する法規制、ICH-GCP	①薬機法と省令GCP ②臨床研究法 ③再生医療等の安全性の確保等に関する法律 ④人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する法規制、ICH-GCP	①薬機法と省令GCP ②臨床研究法 ③再生医療等の安全性の確保等に関する法律 ④人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する法規制、ICH-GCP	—	・薬機法と省令GCP ・ICHの目的とガイドラインの概要 (一般的の医師にはじみが少なく対面型の研修が望ましい。) ・人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(人を対象とする医学系研究に関する倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針の統合指針であること。)	・薬機法と省令GCP ・ICHの目的とガイドラインの概要 (一般的の医師にはじみが少なく対面型の研修が望ましい。) ・人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(人を対象とする医学系研究に関する倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針の統合指針であること。)	—	4
8	規制、規制科学	2	医薬品、医療機器等の審査・承認・販売に関する仕組み	医薬品医療機器総合機構(PMDA)の役割と、我が国における医薬品等の承認過程について解説を行う。また、添付文書についても、その構成や記載内容、活用のし方についても解説する。	受講者は、以下の目標を達成する。 ①医薬品等の承認審査に係るPMDAの役割を理解する。 ②添付文書の法的位置付け及び記載内容について理解する。 ③公知申請(医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議の役割を含む。)について理解する。	医薬品・医療機器等法、PMDA、添付文書、査定(実地調査)	①PMDAの相談業務(レギュラトリーサイエンス相談等) ②PMDAの治験関連業務(治験計画書、副作用報告、先駆け審査指定制度、条件付き早期承認等) ③PMDAの承認審査業務 ④信頼性保証業務(GCP実地調査等) ⑤添付文書 ⑥公知申請(医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議の役割を含む。)	①PMDAの相談業務(レギュラトリーサイエンス相談等) ②PMDAの治験関連業務(治験計画書、副作用報告、先駆け審査指定制度、条件付き早期承認等) ③PMDAの承認審査業務 ④信頼性保証業務(GCP実地調査等) ⑤添付文書 ⑥公知申請(医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議の役割を含む。)	事後学習 ・PMDAの相談業務	・PMDAの相談業務 ・PMDAの治験関連業務 ・PMDAの承認審査業務 ・信頼性保証業務 ・添付文書 ・公知申請	・PMDAの相談業務 ・PMDAの治験関連業務 ・PMDAの承認審査業務 ・信頼性保証業務 ・添付文書 ・公知申請	有 ・PMDAの相談業務 ・PMDAの治験関連業務 ・PMDAの承認審査業務 ・信頼性保証業務 ・添付文書 ・公知申請	2
9	規制、規制科学	2	医療保険制度	我が国における保険診療の枠組みに関し、保険医療機関及び保険医療費担当規則、治療並びに臨床研究における保険外併用療養費制度(先進医療、患者申出療養)の仕組みについて解説する。	受講者は、未承認・適応外の医薬品等を用いた臨床研究・治験を実施するための医療制度を理解する。	保険外併用療養費制度、先進医療、拡大治験、患者申出療養、保険医療機関及び保険医療費担当規則	①混合診療と保険外療養の併用について ②先進医療 ③拡大治験 ④患者申出療養	①混合診療と保険外療養の併用について ②先進医療 ③拡大治験 ④患者申出療養	事後学習 ・保険外併用療養費制度の概要 ・先進医療 ・拡大治験 ・患者申出療養	・保険外併用療養費制度の概要 ・先進医療 ・拡大治験 ・患者申出療養	有 ・どのような制度を用いて臨床研究を行なうのか演習の一部を通じて学習できる演習	1	

No	カテゴリー	カテゴリーNo.	テーマ	概要	達成目標	Key Words	講義項目(Contents)	ピギー向け講義項目	オプション講義項目	E-learning、書籍等で身に着けられる知識	対面型の研修で特に注力して教えるべき知識	演習(ワークショップ)の必要有無及び必要な場合の内容	講義単位数
10	規制、規制科学	2	個人情報等の保護	臨床研究を実施する上で知っておくべき個人情報保護法等に関することを解説する。臨床研究を実施する際に匿名化すべき事項などについても理解が深まるように具体的な事例をもって解説する。	受講者は、以下の目標を達成する。 ①個人情報保護法改正後の臨床研究を実施する際の問題点を理解する。 ②個人情報保護法改正後の臨床研究に係る指針・法令等を順守できる。	個人情報保護法	①個人情報保護法改正後に導入された、個人情報や匿名化に関する新たな概念や用語 ②個人情報を第三者に提供する際の注意事項	①個人情報保護法改正後に導入された、個人情報や匿名化に関する新たな概念や用語 ②個人情報を第三者に提供する際の注意事項	・個人情報保護法 ・個人識別符号 ・要配慮個人情報 ・個人情報の定義の変更 ・インフォームド・コンセントや第三者提供に関するルール：新たに取得する試料・情報、既存の匿名化された試料・情報の取り扱い	・個人識別符号 ・要配慮個人情報 ・個人情報の定義の変更 ・インフォームド・コンセントや第三者提供に関するルール：新たに取得する試料・情報、既存の匿名化された試料・情報の取り扱い	—	—	1
11	規制、規制科学	2	知財戦略	臨床研究で得られた知見を実用化していく際に、知っておくべき知的財産に関する事項を解説する。	受講者は、研究で得られた知見を実用化する際に必要な知的財産や特許に関する知識を理解する。	知的財産、特許権	①知的財産 ②特許	—	①知的財産 ②特許	・知的財産 ・特許	・特許の意義 ・知財デューデリジェンス*1 ・特許戦略	—	0.5
12	規制、規制科学	2	医薬品等安全監視・安全対策	市販後の医薬品等の安全性監視のためにどのような規制が存在し、実際にどのように情報が収集されているか、どのような手法が存在するか、臨床研究実施時の関与などについて解説する。	受講者は、医薬品のリスクを最小化するために必要な製造販売後調査等の業事制度を理解する。	GVP、ファーマコビランス、リスクマネジメントプラン	①製造販売後安全管理の基準(GVP) ②医薬品安全性監視(ファーマコビランス) ③医薬品リスク管理計画(RMP)	—	①製造販売後安全管理の基準(GVP) ②医薬品安全性監視(ファーマコビランス) ③医薬品リスク管理計画(RMP)	・GVP ・ファーマコビランス ・RMP	・市販直後調査 ・製造販売後調査 ・製造販売後臨床試験 ・使用成績調査 ・特定使用成績調査 ・安全性情報 ・患者副作用報告	—	0.5
13	研究行為/実践/実務	3	研究のプロセス、変更管理	プロジェクトマネジメントのプロセスと合わせて、臨床研究の立ち上げ、計画、実施、監視/コントロール、終結のプロセスにおいて、実際の臨床研究の実施過程でどのような業務が発生するかを特定し、全体像を把握できるように解説を行う。また、研究プロセスの変更に関して、変更管理の基本に従い、どのようにコントロールすべきかについても解説する。	受講者は、以下の目標を達成する。 ①プロジェクトマネジメントの5つのプロセスの概念を理解し、その概念に応じて、臨床研究の実施過程で行うべきことが分かる。 ②臨床研究の実施過程において、変更管理の重要性がわかり、実施体制や研究方法の中で変更管理が必要となる内容と手順が理解できる。	プロジェクトマネジメント、変更管理	①臨床研究とプロジェクトマネジメント(PM) ②臨床研究のプロセス ③PM概念を用いたプロセス管理 ④変更管理の必要性 ⑤変更管理の実行 ⑥変更管理の具体例	①臨床研究とプロジェクトマネジメント(PM) ②臨床研究のプロセス ③PM概念を用いたプロセス管理 ④変更管理の必要性 ⑤変更管理の実行 ⑥変更管理の具体例	③PM概念を用いたプロセス管理 ④変更管理の必要性 ⑤変更管理の実行 ⑥変更管理の具体例	・PMの概念	・Work Breakdown Structure(WBS)*2 ・ネットワークダイアグラム*3 ・Change Control*4	有 WBSの作成、クリティカル・パス ・ネットワークダイアグラム*3 ・5の特定	2
14	研究行為/実践/実務	3	研究のポジショニング、資金調達	研究者が実施しようとする研究が、症例報告、観察研究、介入研究の一連の仮説を探し立案し検証する流れの中で、どのようなポジショニング(位置付け)にあるのかを受講者が理解できるようにする。研究のポジショニングに応じた研究に要する資金には、どのようなものがあり、概ねどの程度の資金が必要なのか、また資金源としてはどのようなものがあるのか、その取扱いについて、理解できるようする。	受講者は、以下の目標を達成する。 ①仮説を証明するための研究方法として、症例報告、観察研究、介入研究があることを理解し、適切な研究方法を選択することが出来るようになる。 ②臨床研究の方法毎に想定される研究費の概算を理解し、自らが立案する臨床研究に必要な予算を見積ることが出来るようになる。また、研究資金源の種類や特徴を知り、資金調達の方法及びその取扱いについても理解する。	臨床研究の基本的な流れ、ポジショニング、資金	①研究方法 ②自らの研究のポジショニング ③臨床研究の予算 ④研究予算の見積もり方 ⑤研究資金 ⑥資金調達の方法	①研究方法 ②自らの研究のポジショニング ③臨床研究の予算 ④研究予算の見積もり方 ⑤研究資金 ⑥資金調達の方法	③臨床研究の予算 ④研究予算の見積もり方 ⑤研究資金 ⑥資金調達の方法	・研究方法(研究デザイン)の種類	・臨床研究の外部委託費用	—	2
15	研究行為/実践/実務	3	臨床研究の実行戦略・出口戦略	臨床研究の実行戦略としての臨床開発プラン(CDP: Clinical Development Plan)、出口戦略としてのターゲットプロダクトファイル(TPP: Target Product Profile)の位置づけ、作成の方法の基本について、解説する。	受講者は、以下の目標を達成する。 ①臨床開発プランの定義、作成目的、基本構造を理解し、作成方法の概略が理解できる。 ②TPPに基づいて、臨床開発プランを作成する基本的な方法について理解できる。	CDP、TPP	①臨床開発プランの定義、作成目的、基本構造 ②臨床開発プランの作成 ③TPPとは ④TPPの作成	①臨床開発プランの定義、作成目的、基本構造 ②臨床開発プランの作成 ③TPPとは ④TPPの作成	②臨床開発プランの作成 ④TPPの作成	・臨床開発プラン ・TPPの作成	—	—	1
16	研究行為/実践/実務	3	臨床研究における外部委託、見積もり、契約	アカデミック臨床研究機関(ARO: Academic Research Organization)や開発業務委託機関(CRO: Contract Research Organization)の役割や業務内容を紹介するとともに、臨床研究実施時に、専門的な特定の業務をAROやCROへ委託する際の手順や見積もりの取り方、契約の方法などの留意点について、解説する。	受講者は、以下の目標を達成する。 ①AROの役割を理解できる。 ②CROの役割を理解できる。 ③委託できる業務内容を理解できる。 ④契約を結ぶための手順と留意点を理解できる。 ⑤受講者が所属する医療機関において、契約に必要な手続きを理解できる。	ARO、CRO、委託、見積もり、契約	①AROの役割 ②CROの役割 ③委託できる業務内容 ④契約手順と留意点 ⑤医療機関における契約の確認すべき留意点	①AROの役割 ②CROの役割 ③委託できる業務内容 ④契約手順と留意点 ⑤医療機関における契約の確認すべき留意点	④契約手順と留意点 ⑤医療機関における契約の確認すべき留意点	・AROの役割 ・CROの役割 ・委託できる業務内容 ・契約手順と留意点 ・医療機関における契約の確認すべき留意点	—	—	1
17	研究行為/実践/実務	3	臨床研究における研究チーム	臨床研究において、どのような研究のチーム体制を構築し、どのような準備を進めていくべきか、研究事務局はどのように機能させるべきか、その際の研究責任(代表)医師の役割・責務、チーム内でどのようなコミュニケーションを図り、合意形成を進めて、臨床研究を実施していくかについて、解説する。 ※臨床研究の実施に関する事務及び支援を行う組織であり、例えば、臨床研究法で規定される調整管理実務担当者が行う業務などを執り行う	受講者は、以下の目標を達成する。 ①責任医師としての役割・責務を理解できる。 ②臨床研究の実施体制と場面に応じた関わる人々の役割を理解できる。 ③チームビルディングに必要な要素がわかり、連絡窓口の設置、ロードマップ、目標など情報共有の重要性を理解できる。	研究チーム、研究事務局、研究責任医師の責務、リーダーシップ、コミュニケーションマネジメント	①責任医師の役割・責務 ②臨床研究に関わる人々と役割 ③責任医師と関わる人々のコミュニケーション場面	①責任医師の役割・責務 ②臨床研究に関わる人々と役割 ③責任医師と関わる人々のコミュニケーション場面	③責任医師と関わる人々のコミュニケーション場面	・責任医師の役割・責務 ・臨床研究に関わる人々と役割 ・責任医師と関わる人々のコミュニケーション場面	—	—	2
18	研究行為/実践/実務	3	各種規制当局等への報告、総括/終了報告書	臨床研究における研究事務局の重要性について、その役割、果たすべき責務について、解説する。また、特に重要な各種規制当局等との連絡や報告、総括/終了報告時に果たすべき役割について、具体的な解説を行う。	受講者は、以下の目標を達成する。 ①研究事務局の役割・責務を理解できる ②規制当局の役割を理解し、報告するべき事項を把握できる ③総括/終了報告時に記載する際の留意点、記載事項を理解できる	PMDA/厚生労働省への報告、総括報告書、終了報告	①研究事務局の役割・責務 ②規制当局の役割 ③規制当局に報告するべき事項 ④総括/終了報告時に記載する際の留意点	①研究事務局の役割・責務 ②規制当局の役割 ③規制当局に報告するべき事項 ④総括/終了報告時に記載する際の留意点	④総括/終了報告時の記載する際の留意点	・研究事務局の役割・責務 ・規制当局の役割 ・規制当局に報告するべき事項 ・総括/終了報告時の記載する際の留意点	—	—	1

No	カテゴリー	カテゴリーNo.	テーマ	概要	達成目標	Key Words	講義項目(Contents)	ピギー向け講義項目	オプション講義項目	E-learning、書籍等で身に着けられる知識	対面型の研修で特に注力して教えるべき知識	演習(ワークショップ)の必要有無及び必要な場合の内容	講義単位数
19	研究行為/実践/実務	3	臨床研究における被験物、検体、各種資料の保管・管理	臨床研究で使用する医薬品等の被験物の管理の手順や方法、被験者の服薬コンプライアンス等の確認方法等について、解説する。 また、臨床研究時に発生する各種の検体・資料や書類（倫理審査委員会関連、原資料、同意書、各種報告関連の書類、その他、研究関連の書類）にどのようなものがあるか、どのような保管・管理がなされるべきかについて、解説する。	受講者は、以下の目標を達成する。 ①研究で使用する試験薬・機器の管理の手順や方法を理解し、その留意点を説明できる。 ②試験薬・機器に関する記録の重要性を理解し、関連する文書を適切に保管・管理する上の留意点を説明できる。 ③原資料と必須文書の違いを説明できる。 ④研究の準備計画・実施・終了の各段階でどのような文書が発生するか理解し、特定できる。 ⑤研究で発生した各記録や文書の報告、保管、管理の重要性について理解し、適切に実施する上の留意点を説明できる。	医薬品等管理手順書、研究関連書類の保管・管理	①試験薬・機器の管理の手順と方法 ②原資料と必須文書 ③研究で発生する文書の特定と保管・管理	②原資料と必須文書	①試験薬・機器の管理の手順と方法 ・原資料と必須文書 ③研究で発生する文書の特定と保管・管理	・試験薬・機器の管理の手順と方法 ・原資料と必須文書 ・研究で発生する文書の特定と保管・管理	—	—	0.5
20	研究行為/実践/実務	3	有害事象と疾病等報告	臨床研究実施時に発生する有害事象、副作用、重篤度、重症度の定義及び因果関係の判定を継続的に行うことにより、リスクペネフィットバランスの適切な評価が可能になることについて、解説し、重篤な有害事象発生時における報告の手順等についての留意点について、解説する。 その他、緊急時のエマージェンシーキーワードの開鍵や、緊急時の連絡先の周知、AEDや救急カートなど必要な物品の整備・心肺蘇生訓練などの緊急対応のためのスタッフのトレーニング・緊急対応のための施設内マニュアルの整備などの想定された対応についても解説する。 また、再生医療等安全性確保法、臨床研究法で定義される疾病等についてもふれ、有害事象との取扱いの違いについて、解説する。	受講者は、以下の目標を達成する。 ①有害事象、副作用、重篤、重症度の定義及び因果関係の判定について理解し、解説できる。また、これらを継続的に行うことにより、リスクペネフィットバランスの適切な評価が可能になることについて理解する。 ②重篤な有害事象（疾病等）発生時、各規制要件に応じた報告の手順や留意点等を理解し、適切な様式を用いて報告出来る。 ③医療機器・再生医療等製品の不具合等の報告の手順や留意点等を理解し、適切な様式を用いて報告出来る。 ④エマージェンシーキーワードの管理と緊急時の盲検解除について理解し、説明できる。 ⑤研究に関するスタッフの緊急対応のトレーニングの必要性を理解する。	有害事象、重篤な有害事象(SAE)、疾病等、因果関係	①有害事象等の定義 ②重篤な有害事象・疾病等発生時の対応と報告手順 ③医療機器・再生医療等製品の不具合等の報告手順 ④盲検解除	①有害事象等の定義 ②重篤な有害事象・疾病等発生時の対応と報告手順 ③医療機器・再生医療等製品の不具合等の報告手順 ④盲検解除	③医療機器・再生医療等製品の不具合等の報告手順 ④盲検解除	・有害事象の定義 ・重篤な有害事象・疾病等発生時の対応と報告手順 ・医療機器・再生医療等製品の不具合等の報告手順 ・盲検解除	実例紹介や模擬事例検討を取り入れ、理解を深める（特に多施設共同研究）	無（但し、実例や模擬事例検討による参加型の研修=演習することは可）	1
21	研究行為/実践/実務	3	補償と賠償	臨床研究における補償と賠償の定義及びその違いについて、解説する。また、実際の補償、賠償における対応について、保険の加入、保険の種別、補償・賠償の具体的な事例を解説し、その理解を深める。	受講者は、以下の目標を達成する。 ①健康被害に対する補償処置について理解できる。 ②補償責任と賠償責任の違いを説明できる。 ③補償保険の種別や内容を説明できる。 ④補償保険の内容を比較し、補償保険に加入できる。	補償、賠償、臨床研究保険	①健康被害に対する補償処置 ②補償責任と賠償責任 ③補償保険の種別と内容	①健康被害に対する補償処置 ②補償責任と賠償責任	③補償保険の種別と内容	・健康被害に対する補償処置 ・補償責任と賠償責任 ・補償保険の種別と内容	実例紹介や模擬事例検討を取り入れ、理解を深める（特に参加型の研修=演習することは可）	無（但し、実例や模擬事例検討による参加型の研修=演習することは可）	1
22	研究行為/実践/実務	3	研究機関における研究ガバナンス体制	研究機関において、研究に参加する被験者を保護するためにも、当該機関で実施されている研究がどのように把握されるべきか、高難度新規医療技術 ⁶ が当該機関内で実施される可能性も含めて、医療安全の観点からも、どのような管理がなされるべきかについて、解説する。	受講者は、以下の目標を達成する。 ①実施医療機関における研究ガバナンス体制の重要性を理解し、実施医療機関の長に対し、有害事象報告や定期報告など、各規制要件に応じた必要な報告の手続きの仕方を説明できる。 ②実効的なガバナンス体制の構築・運用において、研究活動の不正行為に対する通報・相談窓口や、被験者・家族からの臨床研究に係る相談を受ける窓口等を設置することの意義を理解できる。 ③臨床研究における安全管理の重要性を理解し、自施設の医療安全管理体制について説明できる。 ④高難度新規医療技術や未承認新規医療品等による医療について、必要な基準や審査等の手続き、報告の手順等から適切に医療を提供できるまでの流れを理解し、説明できる。	研究ガバナンス、研究公正窓口、臨床研究相談窓口、医療安全、高難度新規医療技術	①実施医療機関における研究ガバナンス体制の重要性 ②臨床研究における医療安全管理体制 ③高難度新規医療技術・未承認新規医療品等による医療について	①実施医療機関における研究ガバナンス体制の重要性 ②臨床研究における医療安全管理体制 ③高難度新規医療技術・未承認新規医療品等による医療について	・実施医療機関における研究ガバナンス体制の重要性 ・臨床研究における医療安全管理体制 ・高難度新規医療技術・未承認新規医療品等による医療について	—	—	0.5	
23	研究デザイン	4	研究デザインの立案	臨床研究における研究デザインの立案について、研究コンセプトの検討やプロトコル作成時の留意点等を概説する。臨床的な疑問（クリニカルクエスチョン：CQ）をPICO/PECOにより構造化し、具体的かつ明確な研究形式（リサーチ・クエスチョン：RQ）に変換し、RQを先行研究やFINER（もしくはFIRM ₂ NESSFINER）を確認することにより吟味する方法を中心に解説する。	受講者は、以下の目標を達成する。 ①PICO/PECOについて理解する。 ②FINER（もしくはFIRM ₂ NESSFINER）について理解する ③PubMedなどの文献データベースを用いた文献検索方法について説明できる。	PICO/PECO、FINER（もしくはFIRM ₂ NESSFINER）、文献検索	①クリニカル・クエスチョンを構造化するPICO/PECO ②リサーチ・クエスチョンを吟味する：FINER（もしくはFIRM ₂ NESS） ③文献検索法	①クリニカルクエスチョンを構造化するPICO/PECO ②リサーチ・クエスチョンを吟味する：FINER（もしくはFIRM ₂ NESS） ③文献検索法	③文献検索法	・臨床疑問の定式化（PICO/PECO） ・FIRM ₂ NESS（もしくは、FINER） ・PubMedなどの文献データベースを用いた文献検索方法	—	有（自らのCQをPICO/PECOを用いて構造化しRQに変換し、RQを先行研究やFINER（もしくはFIRM ₂ NESS）を確認して吟味することを実践する）	1.5
24	研究デザイン	4	研究で測定する因子/変数の設定	研究におけるアウトカム評価を行うために必要な因子/変数の種類、因子/変数の設定の仕方、設定した因子/変数の信頼性・妥当性の検証の仕方について、解説する。	受講者は、以下の目標を達成する。 ①primary outcome、secondary outcomeについて説明ができる。 ②測定データの種類（カテゴリカルデータ、量的データ）について説明ができる。 ③因果関係と相関関係の違いについて説明ができる。 ④原因（説明変数/独立変数）、結果（アウトカム/従属変数/目的変数）、交絡因子、中間因子について説明ができる。 ⑤測定データの信頼性と妥当性の検討の仕方について説明ができる。	因子/変数、交絡因子、中間因子	①primary outcome と secondary outcome ②測定データの種類 ③因果推論（偶然誤差、バイアス、交絡） ④原因（説明変数/独立変数）、結果（アウトカム/従属変数/目的変数）、交絡因子、中間因子 ⑤測定データの信頼性と妥当性	①primary outcome と secondary outcome ②測定データの種類 ③因果推論（偶然誤差、バイアス、交絡） ④原因（説明変数/独立変数）、結果（アウトカム/従属変数/目的変数）、交絡因子、中間因子 ⑤測定データの信頼性と妥当性	⑥測定データの信頼性と妥当性	・primary outcome、secondary outcome ・測定データの種類（カテゴリカルデータ、量的データ） ・因果関係と相関関係の違い ・原因（説明変数/独立変数）、結果（アウトカム/従属変数/目的変数）、交絡因子、中間因子 ・測定データの信頼性と妥当性の検討の仕方	—	—	2
25	研究デザイン	4	研究デザインの型、臨床試験の種類	一般的な研究デザインの型として、観察研究、介入研究をはじめとして、どのようなデザインがあるかを解説し、リサーチ・クエスチョン（RQ）にふさわしい型を選択するために必要な知識を解説する。また、実用化研究を行った際には、治験が実施されることも鑑み、治験において、実施される試験の種類についても合わせて解説する。	受講者は、以下の目標を達成する。 ①医学研究デザインの種類とその特徴について説明ができる。 ②わが国の実用化研究の種類（治験や先進医療など）や治験フェーズ（治験P _{III} や非臨床試験など）の特徴について説明ができる。 ③介入研究において自らのRQのポジショニングと、それにふさわしい臨床試験のデザインについて理解し、議論できる。	観察研究、介入研究、治験研究デザイン	①研究デザイン ②わが国の実用化研究の種類と試験フェーズ	①研究デザイン ②わが国の実用化研究の種類と試験フェーズ	—	・医学研究デザインの種類とその特徴 ・わが国の実用化研究の種類（治験や先進医療など）や治験フェーズ（治験P _{III} や非臨床試験など）の特徴 ・事後学習 ・介入研究における自らのRQのポジショニングと、それにふさわしい臨床試験のデザイン	わが国の実用化研究の種類と試験フェーズ RQ-PICO演習：RQをつくり、そのポジショニングと、それにふさわしい臨床試験のデザインを選択する演習 計画書作成：他の研究者が作成した計画書を査読し、評価する演習	1	

No	カテゴリー	カテゴリーNo.	テーマ	概要	達成目標	Key Words	講義項目(Contents)	ビギナー向け講義項目	オプション講義項目	E-learning、書籍等で身に着けられる知識	対面型の研修で特に注力して教えるべき知識	演習(ワークショップ)の必要有無及び必要な場合の内容	講義単位数
26	研究デザイン	4	統計解析手法の選択、サンプルサイズの設計	臨床研究における一般的な統計解析手法を紹介し、解析の目的、アウトカム変数の型に合わせて、検定が行われることを解説する。また、解析対象集団の設定(ITTの原則、FAS、PPS)についても説明する。交絡を制御するための方法として、ランダム化、層別化、マッチングの用い方についても解説する。また、選択された統計解析手法に合わせて、臨床研究に必要なサンプルサイズを設計する必要があることについても併せて、解説する。	受講者は、以下の目標を達成する。 ①臨床研究における一般的な統計解析手法の特徴を説明ができる。 ②交絡を制御するための方法として、ランダム化、層別化、マッチングについて説明ができる。 ③サンプルサイズ設計の意義とその手法の考え方について説明ができる。 ④おおまかなサンプルサイズ設計ができる。	統計解析、解析対象集団(ITTの原則、FAS、PPS)についても説明する。交絡を制御するための方法として、ランダム化、層別化、マッチングについて説明ができる。	①臨床研究における統計解析手法 ②ランダム化、層別化、マッチング ③サンプルサイズ設計	①サンプルサイズ設計 ②ランダム化、層別化、マッチング ③サンプルサイズ設計	・臨床研究における一般的な統計解析手法の特徴 ・交絡を制御するための方法として、ランダム化、層別化、マッチング ・サンプルサイズ設計の意義とその手法の考え方	サンプルサイズ設計 事後学習 ・おおまかなサンプルサイズ設計	有統計ソフトを使用したサンプル設計のハンズオン演習	1	
27	研究デザイン	4	中間解析、独立データモニタリング委員会	あらかじめ計画して行う中間解析、当該研究のgo/no goを判断するための独立データモニタリング委員会(効果安全性評価委員会)の運営の在り方など、研究をデザインする上で留意点について、解説する。	受講者は、以下の目標を達成する。 ①臨床試験における中間解析についてを説明ができる。 ②独立データモニタリング委員会(効果安全性評価委員会)の役割と運営について説明ができる。	中間解析、独立データモニタリング委員会(効果安全性評価委員会)の運営について説明ができる。	①中間解析 ②独立データモニタリング委員会(効果安全性評価委員会)	①中間解析	・臨床試験における中間解析 ・独立データモニタリング委員会(効果安全性評価委員会)の役割と運営	-	-	1	
28	品質マネジメントシステム	5	品質マネジメントシステム	品質マネジメントシステムの基本的な概念を説明し、品質方針の立て方を考えたうえで、どのような体制でデータマネジメント、モニタリング、監査などの臨床研究で行われる品質管理、品質保証の手法を決定していくかについて、解説を行う。	受講者は、以下の目標を達成する。 ①臨床試験における品質の概念を理解する。 ②データの信頼性の確保とその各手法について理解する。 ③品質マネジメントシステムの体系を理解し、品質方針、品質管理計画を策定できるようになる。 ④品質向上のためのPreventive Action、Corrective Actionについて検討できる。	品質マネジメントシステム、品質方針	①臨床試験と品質、GCP改訂(ICH-E6(R2))の方向性 ②Quality Management System ③Risk Management & Issue Management ④品質管理と品質保証活動	①臨床試験と品質、GCP改訂(ICH-E6(R2))の方向性 ②Risk Management & Issue Management ③品質管理と品質保証活動	・品質マネジメントに関する基本的な考え方	臨床試験データの信頼性とは、単にカルテ情報と症例報告書記載情報の一致だけではなく、臨床試験の計画段階が重要であり、プロトコルの作成、データ生成のすべての工程における品質管理工程の作り込みが必要であること。	-	1	
29	品質マネジメントシステム	5	SOP (Standard Operating Procedure)	臨床研究業務において、様々な立場・役割の者がその責任に応じて、実施すべき手順をその時期、タスクを明らかにする位置づけの文書であることについて解説し、各種の業務で作成される必要があることについても言及する。	受講者は、以下の目標を達成する。 ①SOPの概念と必要性を説明できる。 ②SOPの種類、作成時期、明らかにする必要のあるタスク項目を理解する。 ③臨床研究に必要なSOPを作成できる、もしくは作成委託することができる。 ④SOPの運用例を知り、臨床試験に合わせて必要なSOPが設定されるごとを理解する。 ⑤臨床試験に必要なSOPを準備することができる。 ⑥SOPを運用することができる。	SOP	①SOPの概念と必要性 ②GCPの要求事項の整理とSOPの整備 ③臨床試験の信頼性を保証する手段としてのSOP ④臨床試験関連SOPの一般的構成と臨床試験管理の手順書例	①SOPの概念と必要性 ②GCPの要求事項の整理とSOPの整備 ③臨床試験の信頼性を保証する手段としてのSOP ④臨床試験関連SOPの一般的構成と臨床試験管理の手順書例	・改正GCP第2章2節自ら治験を実施しようとする者による治験の準備に関する基準 事後学習 ・改正GCPのガイドラインについての一部改正等について第15条の2。 ・公益社団法人日本医師会治験促進センター、医師主導治験等を実施するために(http://www.jmact.med.or.jp/clinical-trial/enforcement.html)	-	-	1	
30	品質マネジメントシステム	5	データマネジメント	臨床試験のデータフロー、及び、試験全体の品質管理を考慮したデータ収集・管理について解説し、品質マネジメントにおけるデータマネジメントの役割について学ぶ。	受講者は、以下の目標を達成する。 ①臨床試験におけるデータの流れについて理解する。 ②データの質を低下させる原因(データ不備とデータエラー)とその対策について理解する。 ③データチェックの方法(マニュアルチェック、ロジカルチェック)の違いについて理解する。 ④品質管理の方法として出入口管理とプロセス管理の違い、そして、データマネジメントの品質管理について、ISO9000シリーズの考え方を交え理解する。 ⑤データ標準について理解する。 ⑥コーディングについて理解する。	データマネジメント、CRF、EDC、プロセス管理	①臨床試験におけるデータの流れ ②データ不備とデータエラー ③データチェック ④データマネジメントにおける品質管理 ⑤データ標準 ⑥コーディング	①臨床試験におけるデータの流れ ②データ不備とデータエラー ③データチェック ④データ標準 ⑤データ標準 ⑥コーディング	・データマネジメントにおける品質管理 ④データ標準とデータエラー ⑤データ標準 ⑥コーディング	・品質管理の原則について 事後学習 ・CDISCの全体像について	-	-	1
31	品質マネジメントシステム	5	モニタリング、監査	モニタリングを実施する者(モニター)の役割、各種のモニタリング手法(On-site/Off-site/中央モニタリング、Risk Based Approach [RBA])や使い分け、データの直接問い合わせ(Attributable[帰属や責任の所在が明確であること], Legible[判読・理解可能であること], Contemporaneous[遅滞のないこと], Original[原本であること], Accurate[正確であること])に則った原資料作成がなされたうえで、各種のモニタリングが成立しうることについても解説する。 また、監査についても、監査の種類(システム監査、臨床試験の監査)、監査におけるCAPA(Corrective Action[是正措置], Preventive Action[再発予防措置])の実行についても解説を行う。	受講者は、以下の目標を達成する。 ①モニタリングの目的を理解し、モニタリング担当者の役割と業務を理解する。 ②RBAの観点から、対象となる臨床研究のリスク評価(リスクの特定・分析・決定)を行うことができる。 ③モニタリング手順書、モニタリングに必要な資料(チェックリスト等)を準備し、モニタリングの実施または適切なモニターの指名ができる。 ④監査の目的を理解し、監査担当者の役割と業務を理解する。 ⑤監査手順書、監査に必要な資料(チェックリスト等)を準備し、監査の実施または適切な監査担当者の指名ができる。	モニタリング、モニタリング手法、ALCOA、監査、CAPA、Risk Based Approach(RBA)、Risk Assessment and Categorization Tool (RACT)	①臨床研究のモニタリング ②臨床研究の監査	①臨床研究のモニタリング ②臨床研究の監査	-	・日本の臨床研究の開発戦略と関連法規 ・モニタリング手順書の作成 ・モニタリングに必要な資料の作成 1) モニタリング手順書の作成 2) モニタリングに必要な資料の作成 3) モニタリングの実施と報告書作成 4) 監査手順書の作成 5) 監査に必要な資料の作成 6) 監査の実施と報告書作成 または適切なモニターの指名	有1) モニタリング手順書の作成 2) モニタリングに必要な資料の作成 3) モニタリングの実施と報告書作成 4) 監査手順書の作成 5) 監査に必要な資料の作成 6) 監査の実施と報告書作成または適切な監査担当者の指名	1	
32	研究の実例(成功例、失敗例、緊急時の対応、巨大地震等の自然災害、コロナウイルス等感染症発生時の対応)	6	臨床試験実施に際しての留意点等について(研究の実例を用いて、成功例・失敗例、巨大地震等の自然災害、コロナウイルス等感染症発生時の対応を紹介するので、タイトルは都度変更される)	臨床研究における成功例、失敗例、巨大地震等の自然災害、コロナウイルス等感染症発生時の対応など、臨床研究を実践的に進める上で、参考になるであろう実例を解説し、臨床研究で押さえるべき点について、理解が進むような講義を行う。	受講者は、臨床研究の成功例、失敗例、巨大地震等の自然災害、コロナウイルス等感染症発生時の対応を参考として、自らの今後の研究に活かせるようになる。	成功実例、失敗実例、巨大地震等の自然災害、コロナウイルス等感染症発生時の対応	- (具体例毎に項目は変わりうる)	-	-	-	-	-	1
33	その他	7	臨床研究への患者・市民参画	臨床研究における患者・市民参画について、患者・市民の視点を取り入れる意義、患者・市民参画の基本を解説し、患者・市民参画の進め方の概要を解説する。	受講者は、患者・市民参画の意味、意義を理解し、基本的な知識を習得し、臨床研究における患者・市民参画の実践が出来るようになることを目標とする。	患者・市民参画(PPI: Patient Public Involvement)	①患者・市民参画の意義 ②患者・市民参画の実践例 ③患者・市民参画の実践	①患者・市民参画の意義 ②患者・市民参画の実践例 ③患者・市民参画の実践	・患者・市民参画の意義 ・患者・市民参画の実践例 ・患者・市民参画の実践	-	-	-	1

*1 知的財産デューデリジエンス 取引による知的財産の譲渡、ライセンスの契約締結に際して、事前に当該取引実行の是非を判断する材料として、対象となる知的財産の価値を評価するため現況を調査、検証する手続きのこと

*2 Work Breakdown Structure (WBS) プロジェクトにおいて、成果物を創成するために実行すべき作業を要素分解し、階層構造で表現した作業分解構成図のこと

*3 ネットワークダイアグラム (Network Diagram) 最終成果物を創成するために必要な作業、中間成果物及びマイルストーンをそれらの依存関係に基づいて結んだ図のこと

*4 Change Control (変更管理) 計画を立案した段階で、当該計画を変更する際の手順を明確に定めておくこと

*5 クリティカルパス (Critical Path) ひとつのプロジェクトの全ての工程(作業経路)のうち、当該プロジェクトを最短時間で完了することができる工程(作業経路)のこと

*6 高難度新規医療技術 当該病院で実施したことのない医療技術(軽微な術式変更等を除く)であって、その実施により患者の死亡その他重大な影響が想定されるもの

1	カテゴリーテーマ	研究公正、研究倫理	単位数	0.5
	テーマ	被験者保護のための規制の正当性と歴史		
概要	現在の規制やガイドラインに影響を与えた歴史的な事件（第二次世界大戦中のドイツの人体実験、米国のタスキギー事件など）を紹介し、被験者保護の観点から、ニュルンベルク綱領、ヘルシンキ宣言、ベルモントレポートなどが制定された経緯について概説する。			
達成目標	受講者は、現在の規制やガイドラインに影響を与えた歴史的な事件を学び、被験者保護の観点から、ニュルンベルク綱領、ヘルシンキ宣言、ベルモントレポートなどが制定された経緯とその概要を理解する。			
Key Words	ニュルンベルク綱領、ヘルシンキ宣言、ベルモントレポート、被験者保護			
【講義項目】				
<ol style="list-style-type: none"> 1. ニュルンベルク綱領、ヘルシンキ宣言 2. ベルモントレポート 3. 被験者保護 				
参考資料 :				
<ol style="list-style-type: none"> 1) 大橋 靖雄, 荒川 義弘: 臨床試験の進め方. 南江堂. 2006 2) 井村 裕夫, 竹内 正弘, 花岡 英紀, 藤原 康弘, 山本 晴子: NIH 臨床研究の基本と実際 原書3版. 丸善出版. 2016 3) ICR 臨床研究入門 [https://www.icrweb.jp/icr_index.php] 4) CREDITS 1-2 章 [https://www.uhcta.com/uth/member/] 				
参照できる E-learning :				
ICR 臨床研究入門				
<ol style="list-style-type: none"> 1) 臨床研究の歴史、意義、研究の定式化（2012 年度版） 2) 研究倫理ベーシック 				
CROCO				
1) 臨床研究の歴史と被験者保護（生命・医学系指針対応版）				
慶應義塾大学病院臨床研究教育研修受講管理システム				
<ol style="list-style-type: none"> 1) 臨床研究入門（臨床研究概論、研究デザイン概説） 2) 臨床研究入門（医学研究における倫理） 3) 臨床研究入門（倫理指針のポイントとその実践） 				
CREDITS				
<ol style="list-style-type: none"> 1) 臨床研究の歴史(1 章) 2) ヘルシンキ宣言(1 章) 3) ベルモントレポート(1 章) 4) 実際の適用(1 章) 				
OUH-Elearn				
1) 臨床研究者講習会：被験者保護のための規制の正当性と歴史				

2	カテゴリーテーマ	研究公正、研究倫理	単位数	0.5
	テーマ	インフォームド・コンセントと被験者の権利		
概要	被験者の権利尊重に基づくインフォームド・コンセントのあり方について解説する。特に、研究実施に伴って生じうる種々のリスクとベネフィットをふまえて、研究に関するすべての面について十分かつ平易に説明する必要があること、いつでも不利益を受けることなしに研究参加を取りやめることができること、社会的弱者、健常人、小児などの特別な配慮を必要とする集団を対象とする場合の代諾やインフォームド・アセントなど、インフォームド・コンセントに関する重要事項について解説する。併せて、プライバシーが必要となる場合の対応についても解説を行う。さらに、プライバシー及び個人情報の保護に関する対応のあり方についても取り扱う。			
達成目標	受講者は、被験者の権利を理解し、被験者の自由意思が最も尊重されることを学ぶ。研究においてもプライバシーが必要となる場合も含めて様々な状況があることから、種々のリスクとベネフィットを踏まえて、適切なインフォームド・コンセント、インフォームド・アセント、同意の代諾がなされることについて理解するとともに、実践できるようになる。			
Key Words	インフォームド・コンセント、インフォームド・アセント、リスク＆ベネフィット、プライバシー保護、社会的弱者、プライバシー			
【講義項目】				

1. インフォームド・コンセント
2. インフォームド・アセント
3. リスク＆ベネフィット

参考資料 :

- 1) 大橋 靖雄, 荒川 義弘: 臨床試験の進め方. 南江堂. 2006
- 2) 井村 裕夫, 竹内 正弘, 花岡 英紀, 藤原 康弘, 山本 晴子: NIH 臨床研究の基本と実際 原書3版. 丸善出版. 2016

参照できる E-learning :

ICR 臨床研究入門

- 1) 研究倫理ベーシック
- 2) 説明同意文書の作成ポイント
- 3) 再生医療研究のインフォームド・コンセント（再生医療を題材として使用していますが、実践的インフォームド・コンセントの教材として広く活用できることになっています。）

CROCO

- 1) 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針－2
- 2) 同意のプロセス（生命・医学系指針対応版）

慶應義塾大学病院臨床研究教育研修受講管理システム

- 1) 臨床研究入門（倫理指針のポイントとその実践）
- 2) 臨床研究入門（臨床研究概論、研究デザイン概説）
- 3) 臨床研究入門（医学研究における倫理）
- 4) 治験・臨床試験参加への同意取得に必要な18項目

CREDITS

- 1) IC が人格尊重のための手続きであること(1章)
- 2) IC に関する一般的な事項(9章)
- 3) IC 文書作成について(9章)
- 4) インフォームド・コンセントとインフォームド・アセントの違い(9章)
- 5) プライバシーの保護について(1章)
- 6) プラセボについて(3章)

OUH-Elearn

- 1) 臨床研究者講習会：インフォームド・コンセントと被験者の権利

備考	研究者は、研究対象者の研究の参加継続に関わらず、治療を十分に受けられることを保証することや、研究上の手順で、研究参加継続とならないことや、中止となることがあることについても説明する。
----	---

3	カテゴリーテーマ	研究公正、研究倫理	単位数	1		
	テーマ	臨床研究における研究不正と行動規範				
概要	臨床研究における行動規範をふまえ、研究不正とそれが疑われる行為についての定義を解説し、不正（捏造・改ざん・盗用）やそれらが疑われる事例を紹介することで理解を深めるようにする。研究者が守るべき行動規範として、リサーチ・インテグリティ（研究公正）に取り組み、研究を進めていく重要性についても解説する。また、メンタリングの概念についても、ふれておく。					
達成目標	受講者は、臨床研究における行動規範をふまえ、研究不正とそれが疑われる行為について学び、実践できるようになる。					
Key Words	研究不正、過失、FFP、QRP、リサーチ・インテグリティ、メンタリング					

【講義項目】

1. 研究不正・過失（捏造・改ざん・盗用）
2. 研究倫理・行動規範

参考資料 :

- 1) 大橋 靖雄, 荒川 義弘: 臨床試験の進め方. 南江堂. 2006
- 2) 井村 裕夫, 竹内 正弘, 花岡 英紀, 藤原 康弘, 山本 晴子: NIH 臨床研究の基本と実際 原書3版. 丸善出版. 2016

参照できる E-learning :

ICR 臨床研究入門

- 1) 研究倫理ベーシック

2) 研究不正、企業不正の背景を考える

CROCO

1) 研究不正と行動規範

慶應義塾大学病院臨床研究教育研修受講管理システム

- 1) 臨床研究入門（医学研究における倫理）
- 2) 臨床研究入門（臨床研究概論、研究デザイン概説）

CREDITS

- 1) 不正と過失の定義(2章)
- 2) 過去の事件、科学研究行動規範(2章)
- 3) メンタリングの概念(2章)

OUH-Elearn

- 1) 臨床研究者講習会：臨床研究における研究不正と行動規範

日本学術振興会

- 1) 研究倫理 e ラーニングコース(e-Learning Course on Research Ethics)[eL CoRE]

APRIN e ラーニングプログラム (eAPRIN)

- 1) 責任ある研究行為について／Responsible Conduct of Research_RCR
- 2) 研究における不正行為／Research Misconduct_RCR
- 3) データの扱い／Data Handling_RCR
- 4) 共同研究のルール／Rules for Collaborative Research_RCR
- 5) 盗用（生命医科学系）／Plagiarism(Biomedical)_RCR

【実施が望ましい演習（※単位数、時間には含めない）】

- ・不正の及ぼす影響
- ・不正への対応

4	カテゴリーテーマ	研究公正、研究倫理	単位数	1
	テーマ	オーサーシップ、ICMJE ガイドライン、各種論文報告ガイドライン		
概要	オーサーシップの概念から、研究結果を報告する際に著者には誰がふさわしいのか、報告の過程における透明性の確保が重要であることを解説する。これらを解説する過程で、ICMJE の統一投稿規程でどのように定義され、議論されているかの経緯についてもふれ、その取扱いの重要性について解説する。研究が開始されるまでに臨床研究データベース登録を行い、研究終了後に結果を報告することの重要性や、研究の種類に応じた論文報告ガイドラインについても触れる。			
達成目標	受講者は、以下の目標を達成する。 ①オーサーシップの取り扱いの重要性を認識する。 ②著者の役割と責任、研究貢献者との違いを理解する。 ③研究開始前に、公開されたデータベースに臨床研究を登録し、研究終了後に研究結果を報告することの重要性について理解する。 ④研究結果を論文として報告する際の規定、研究の種類に応じたガイドラインについて理解する。			
Key Words	オーサーシップ、ICMJE、臨床試験登録、CONSORT 声明、透明性			

【講義項目】

1. オーサーシップ
2. 臨床試験登録
3. ICMJE 統一投稿規定
4. 研究の種類と各種ガイドライン

参考資料：

- 1) ICMJE 統一投稿
[https://www.honyakucenter.jp/usefulinfo/pdf/ICMJE_Recommendations_2017.pdf]
- 2) CONSORT 声明
- 3) STROBE 声明
- 4) PRISMA 声明
- 5) 研究公正ポータル [http://www.jst.go.jp/kousei_p/index.html]

参照できる E-learning :

ICR 臨床研究入門
1) 研究倫理ベーシック

慶應義塾大学病院臨床研究教育研修受講管理システム
1) 臨床研究入門 (医学研究における倫理)

CREDITS

- 1) オーサーシップの取扱(2 章)
- 2) 研究開始前のデータベースへの登録(3 章)
- 3) 共同研究における各研究者の役割と責任(2 章)

OUH-Elearn

- 1) 臨床研究者講習会：論文作成の意味と書き方

APRIN e ラーニングプログラム (eAPRIN)

- 1) オーサーシップ／Authorship_RCR

5	カテゴリーテーマ	研究公正、研究倫理	単位数	1		
	テーマ	利益相反、研究の透明性の確保				
概要	臨床研究における利益相反の概念について解説し、利益が相反した状態でどのように管理を行うことが可能なのかについて解説する。利益相反の開示のありかたや、懸念される点についても解説を行う。					
達成目標	受講者は、以下の目標を達成する。 ①利益相反には何が含まれるのかを理解する。 ②利益相反管理、利益相反開示の必要性について理解する。 ③利益相反の管理方法、開示方法について理解する。					
Key Words	利益相反、利益相反管理					

【講義項目】

1. 利益相反とは
2. 利益相反の管理
3. 利益相反の開示

参考資料 :

- 1) ICMJE 統一投稿規定
[https://www.honyakucenter.jp/usefulinfo/pdf/ICMJE_Recommendations_2017.pdf]
- 2) 研究公正ポータル [http://www.jst.go.jp/kousei_p/index.html]
- 3) 厚生労働科学研究における利益相反 (Conflict of Interest : COI) の管理に関する指針
[<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10600000-Daijinkanboukouseikagakuka/0000152586.pdf>]
- 4) 臨床研究法における臨床研究の利益相反管理について (平成 30 年 11 月 30 日医政研発 1130 第 17 号 厚生労働省医政局研究開発振興課長通知) 【平成 31 年 4 月 1 日施行】
[<https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/000422858.pdf>]

参照できる E-learning :

ICR 臨床研究入門
1) 研究倫理ベーシック

CROCO

- 1) 利益相反等 (生命・医学系指針対応版)

慶應義塾大学病院臨床研究教育研修受講管理システム
1) 臨床研究入門 (医学研究における倫理)

CREDITS

- 1) オーサーシップの取扱(2 章)
- 2) 研究開始前のデータベースへの登録(3 章)
- 3) 共同研究における各研究者の役割と責任(2 章)

APRIN e ラーニングプログラム (eAPRIN)
1) オーサーシップ／Authorship_RCR

6	カテゴリーテーマ	研究公正、研究倫理	単位数	1						
	テーマ	倫理審査委員会								
概要	<p>臨床研究は、診療では解決できないことを解消することを目的として実施され、法規制に則って、倫理審査委員会等での審査を経て、実施の承認を得なければならないことを説明する。被験者の保護のあり方や、研究申請に際して、チェックされるべき事項、タイムスケジュールなどに關しても解説する。また、申請に先立ち、ピアレビューによる事前確認を受けておく必要性についてもふれる。</p> <p>倫理審査委員会での審査・承認と合わせて、資金提供者との契約関連の手続きや書類の発生があることについても解説する。</p>									
達成目標	<p>受講者は、以下の目標を達成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①倫理審査委員会の役割、構成について理解する。 ②各種法規制と倫理審査を行う委員会について知る。 ③倫理審査委員会への提出書類および流れ、主な審査内容について理解する。 									
Key Words	倫理審査委員会、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針、臨床研究法、省令 GCP									
<p>【講義項目】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 倫理審査委員会の役割、構成 2. 各種法規制と倫理審査委員会 3. 倫理審査委員会の流れと審査内容 										
<p>参考資料：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 研究に関する指針について [https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/kenkyujigyou/i-kenkyu/] 2) 臨床研究法について [https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000163417.html] 3) 省令 GCP [https://www.pmda.go.jp/review-services/inspections/gcp/0007.html] 4) 再生医療について [https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/iryou/saisei_iryou/index.html] 										
<p>参照できる E-learning :</p> <p>ICR 臨床研究入門</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 臨床研究法の要点 2) 臨床研究法下の利益相反審査 3) 研究倫理審査のポイント－科学的観点から 4) 倫理審査のポイント－倫理的観点から 5) 倫理審査委員会 6) 認定臨床研究審査委員会～Certified Review Board～ 										
<p>CROCO</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 倫理審査委員会 2) 治験審査委員会について 3) 人を対象とする医学系研究に関する指針倫理審査委員会の役割・責務 4) 認定臨床研究審査委員会 5) 倫理審査委員会（中央審査を含む）（生命・医学系指針対応版） 										
<p>慶應義塾大学病院臨床研究教育研修受講管理システム</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 臨床研究入門（臨床研究概論、研究デザイン概説） 2) 臨床研究入門（医学研究における倫理） 3) 臨床研究入門（倫理指針のポイントとその実践） 										
<p>CREDITS</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 研究倫理委員会の責務と運用（3章） 2) ヘルシンキ宣言の倫理委員会に関する記載（1章） 3) GCP 省令の倫理委員会に関する記載（6章） 4) 臨床研究・治験の相違（1章） 5) 診療と研究の境界（1章） 6) タイムライン（7章） 										
<p>OUH-Elearn</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 臨床研究者講習会：倫理審査委員会 										

7	カテゴリーテーマ	規制、規制科学	単位数	4
	テーマ	臨床研究・治験に対する法的な枠組み		

概要	GCP、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（人を対象とする医学系研究に関する倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針）、臨床研究法などの各種規制について解説し、臨床研究に関する法規制について補足する。医薬品規制調和国際会議（ICH）により、ICH-GCP が制定され、アメリカ、日本、ヨーロッパ等の世界各国の規制の国際調和がなされていることについて解説する。
達成目標	受講者は、以下の目標を達成する。 ①実施する臨床研究に対して適用される規制（薬機法と省令 GCP、臨床研究法、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針等）を理解する。 ②ICH の目的、ICH ガイドラインの概要について理解する。
Key Words	GCP、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針、臨床研究法、ICH-GCP

【講義項目】

1. 薬機法と省令 GCP
2. 臨床研究法
3. 再生医療等の安全性の確保等に関する法律
4. 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針
5. ICH の目的とガイドラインの概要（ICH-GCP 等）

参考資料：

- 1) ICR 臨床研究入門 [\[https://www.icrweb.jp/icr_index.php\]](https://www.icrweb.jp/icr_index.php)
- 2) 省令 GCP [\[https://www.pmda.go.jp/review-services/inspections/gcp/0007.html\]](https://www.pmda.go.jp/review-services/inspections/gcp/0007.html)
- 3) 臨床研究法について [\[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000163417.html\]](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000163417.html)
- 4) 再生医療について [\[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/iryou/saisei_iryou/index.html\]](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/iryou/saisei_iryou/index.html)
- 5) 研究に関する指針について [\[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/kenkyujigyou/i-kenkyu/\]](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/kenkyujigyou/i-kenkyu/)
- 6) ICH 医薬品規制調和国際会議 [\[https://www.pmda.go.jp/int-activities/int-harmony/ich/0014.html\]](https://www.pmda.go.jp/int-activities/int-harmony/ich/0014.html)
- 7) 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（本文）
[\[https://www.mhlw.go.jp/content/000757566.pdf\]](https://www.mhlw.go.jp/content/000757566.pdf)
- 8) 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針ガイドンス
[\[https://www.mhlw.go.jp/content/000769923.pdf\]](https://www.mhlw.go.jp/content/000769923.pdf)

参照できる E-learning：

ICR 臨床研究入門

- 1) GCP の ABC
- 2) 2021 年統合指針・ガイドンスの改正点概要に関する解説
- 3) 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針
- 4) 臨床研究法の要点
- 5) 臨床研究法下の利益相反審査
- 6) 研究倫理審査のポイント—科学的観点から
- 7) 倫理審査のポイント—倫理的観点から

CROCO

- 1) GCP-1
- 2) GCP-2
- 3) 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針－1
- 4) 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針－2
- 5) 臨床研究法の解説
- 6) 臨床研究法における利益相反管理
- 7) 認定臨床研究審査委員会
- 8) 臨床研究に関する資金等の提供
- 9) 経過措置について
- 10) 再生医療等の安全性の確保等に関する法律
- 11) 医師主導治験

慶應義塾大学病院臨床研究教育研修受講管理システム

- 1) 臨床研究入門（規制科学 regulatory science 概説）
- 2) 臨床研究入門（臨床研究概論、研究デザイン概説）

CREDITS

- 1) GCP 省令の概要(6 章)
- 2) 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針(6 章)
- 3) その他の規則について（ICH、先進医療）(6 章)

- 4) 再生医療等安全性確保法(4章、6章)
 5) 厚生労働省
 6) PMDA(4章)
 7) ICH(6章)

OUH-Elearn

- 1) 臨床研究者講習会：臨床研究・治験に対する法的な枠組み

備考	企業主導治験と医師主導治験の相違点についても、必要に応じて、解説する。 国際共同試験の目的（民族間の薬物動態や薬力学的な類似点・差異の明確化等）についても、必要に応じてふれる。
----	---

8	カテゴリーテーマ	規制、規制科学	単位数	2
	テーマ	医薬品、医療機器等の審査・承認・販売に関する仕組み		

概要	本講義では、医薬品医療機器総合機構（PMDA）の役割と、我が国における医薬品等の承認過程について解説を行う。 また、添付文書についても、その構成や記載内容、活用の仕方についても解説する。
達成目標	受講者は、以下の目標を達成する。 ①医薬品等の承認審査に係る PMDA の役割を理解する。 ②添付文書の法的位置付け及び記載内容について理解する。 ③公知申請（医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議の役割を含む。）について理解する。

Key Words	医薬品・医療機器等法、PMDA、添付文書、査察（実地調査）
-----------	-------------------------------

【講義項目】

1. PMDA の相談業務（レギュラトリーサイエンス相談等）
2. PMDA の治験関連業務（治験計画届、副作用報告等）
3. PMDA の承認審査業務
4. 信頼性保証業務（GCP 実地調査等）
5. 添付文書
6. 公知申請（医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議の役割を含む。）

参考資料：

- 1) レギュラトリリー・ドクターズ：絶対に知るべき臨床研究の進め方. メジカルビュー社. 2016
- 2) RS 総合相談・RS 戦略相談 PMDA [<https://www.pmda.go.jp/review-services/f2f-pre/strategies/0003.html>]
- 3) 医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬の今後の要望募集について
[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/iyakuhin/misyounin/index.html]

参照できる E-learning :

ICR 臨床研究入門

- 1) 体外診断薬（+NGS, CDx）に関する規制要件・ガイドライン
- 2) 医薬品（抗悪性腫瘍薬を中心に）の臨床開発に関する規制要件・ガイドライン等
- 3) 医療機器の臨床開発に関する規制要件・ガイドライン等

CROCO

- 1) 臨床試験（治験）の 計画と準備 – 1
- 2) 臨床試験（治験）の 計画と準備 – 2
- 3) 医薬品・医療機器開発
- 4) GCP-2 (ICH-GCP)

慶應義塾大学病院臨床研究教育研修受講管理システム

- 1) 臨床研究入門（規制科学 regulatory science 概説）

CREDITS

- 1) 承認過程、PMDA の役割(4章)

【実施が望ましい演習（※単位数、時間には含めない）】

医師主導治験の結果承認に至った医薬品等の事例を通した演習

9	カテゴリーテーマ	規制、規制科学	単位数	1
	テーマ	医療保険制度		
概要	我が国における保険診療の枠組みに関し、保険医療機関及び保険医療養担当規則、治験並びに臨床研究における保険外併用療養費制度（先進医療、患者申出療養）の仕組みについて解説する。			
達成目標	受講者は、未承認・適応外の医薬品等を用いた臨床研究・治験を実施するための医療制度を理解する。			
Key Words	保険外併用療養費制度、先進医療、拡大治験、患者申出療養、保険医療機関及び保険医療養担当規則			
【講義項目】				
1. 混合診療と保険外療養の併用について 2. 先進医療 3. 拡大治験 4. 患者申出療養				
参考資料 :				
1) 混合診療と保険外療養の併用について [https://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/isei/sensiniryo/heiyou.html]				
2) 保険外併用療養制度等 [https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12400000-Hokenkyoku/0000118805.pdf] [https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12600000-Seisakutoukatsukan/0000089361.pdf]				
参照できる E-learning :				
ICR 臨床研究入門				
1) 先進医療などの保険外併用療養の考え方～その歴史、仕組み、運用、出口や周辺制度など～《講師：真田昌爾》				
慶應義塾大学病院臨床研究教育研修受講管理システム				
1) 様々な臨床研究の定義、手続き、実施基準				
CREDITS				
1) 先進医療（6 章）				
【実施が望ましい演習（※単位数、時間には含めない）】				
どのような制度を用いて臨床研究を行うのか演習の一部を通じて学習できる演習				

10	カテゴリーテーマ	規制、規制科学	単位数	1
	テーマ	個人情報等の保護		
概要	臨床研究を実施する上で知っておくべき個人情報保護法等に関するなどを解説する。臨床研究を実施する際に匿名化すべき事項などについても理解が深まるように具体的な事例をもって解説する。			
達成目標	受講者は、以下の目標を達成する。 ①個人情報保護法改正後の臨床研究を実施する際の問題点を理解する。 ②個人情報保護法改正後の臨床研究に係る指針・法令等を順守できる。			
Key Words	個人情報保護法			
【講義項目】				
1. 個人情報保護法改正後に導入された、個人情報や匿名化に関する新たな概念や用語				
参考資料 :				
1) 個人情報保護法等の改正に伴う 研究倫理指針の改正について (文科・厚労・経産 H29 年 5 月 : [http://pathology.or.jp/news/pdf/rinri_170710.pdf])				
参照できる E-learning :				
ICR 臨床研究入門				
1) 臨床研究を規制するルール－個人情報保護法と臨床研究法－				
CROCO				
1) 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針－2				
慶應義塾大学病院臨床研究教育研修受講管理システム				
1) 臨床研究入門（倫理指針のポイントとその実践）				

2) 臨床研究入門（臨床研究概論、研究デザイン概説）

CREDITS

1) 匿名化について(1章)

APRIN e ラーニングプログラム（eAPRIN）

1) 研究における個人に関する情報の取り扱い／Handling Personal Information in Research_HSR

1 1	カテゴリーテーマ	規制、規制科学	単位数	0.5						
	テーマ	知財戦略								
概要	臨床研究で得られた知見を実用化していく際に、知っておくべき知的財産に関する事項を解説する。									
達成目標	受講者は、研究で得られた知見を実用化する際に必要な知的財産や特許に関する知識を理解する。									
Key Words	知的財産、特許権									
【講義項目】										
1. 知的財産 2. 特許										
参考資料：										
1) 大学における知的財産マネジメント（特許庁・（一社）発明推進協会アジア太平洋工業所有権センター、2016： [https://www.jpo.go.jp/news/kokusai/developing/training/textbook/document/index/64_Intellectual_Property_j.pdf]										
2) AMED 医療研究者向け知的財産教材 [https://www.amed.go.jp/chitekizaisan/chizai_kyouzai_mokuji.html]										
参照できる E-learning :										
ICR 臨床研究入門										
1) 研究者のための契約と知的財産：産学連携を行う上での留意点										
CROCO										
1) 医薬品・医療機器開発										
慶應義塾大学病院臨床研究教育研修受講管理システム										
1) 基礎研究の成果を実用化へ～橋渡し研究における注意点～										
OUH-Elearn										
1) 臨床研究者講習会：知財戦略										

1 2	カテゴリーテーマ	規制、規制科学	単位数	0.5						
	テーマ	医薬品等安全監視・安全対策								
概要	市販後の医薬品等の安全性監視のためにどのような規制が存在し、実際にどのように情報が収集されているか、どのような手法が存在するか、臨床研究実施時の関与などについて解説する。									
達成目標	受講者は、医薬品のリスクを最小化するために必要な製造販売後調査等の薬事制度を理解する。									
Key Words	GVP、ファーマコビジランス、リスクマネジメントプラン									
【講義項目】										
1. 製造販売後安全管理の基準(Good Vigilance Practice) 2. 医薬品安全性監視(pharmacovigilance) 3. 医薬品リスク管理計画(RMP)										
参考資料：										
1) 行政が実施しているリスク最小化策と企業に望むもの PMDA、H25年1月24日：[https://www.pmda.go.jp/files/000163759.pdf]										
参照できる E-learning :										
CROCO										
1) 臨床試験の実施－2（生命・医学系指針対応版）										
慶應義塾大学病院臨床研究教育研修受講管理システム										

1) 臨床研究入門（規制科学 regulatory science 概説）

13	カテゴリーテーマ	研究行為/実践/実務	単位数	2
	テーマ	研究のプロセス、変更管理		
概要	プロジェクトマネジメントのプロセスと合わせて、臨床研究の立ち上げ、計画、実施、監視/コントロール、終結のプロセスにおいて、実際の臨床研究の実施過程でどのような業務が発生するかを特定し、全体像を把握できるように解説を行う。また、研究プロセスの変更に関して、変更管理の基本に従い、どのようにコントロールすべきかについても解説する。			
達成目標	受講者は、以下の目標を達成する。 ①プロジェクトマネジメントの5つのプロセスの概念を理解し、その概念に応じて、臨床研究の実施過程で行うべきことが分かる。 ②臨床研究の実施過程において、変更管理の重要性がわかり、実施体制や研究方法の中で変更管理が必要となる内容と手順が理解できる。			
Key Words	プロジェクトマネジメント、変更管理			

【講義項目】

1. 臨床研究とプロジェクトマネジメント (PM)
2. 臨床研究のプロセス
3. PM 概念を用いたプロセス管理
4. 変更管理の必要性
5. 変更管理の実行
6. 変更管理の具体例

参考資料 :

- 1) Project Management Institute: A Guide to the Project Management Body of Knowledge (PMBOK GUIDE) 7th Edition. 2021

参照できる E-learning :

CROCO

- 1) 臨床試験の実施－1（生命・医学系指針対応版）
- 2) 臨床試験の実施－2（生命・医学系指針対応版）
- 3) プロジェクトマネジメント

慶應義塾大学病院臨床研究教育研修受講管理システム

- 1) Feasible なプロトコール作成の留意点

CREDITS

- 1) スポンサーとの書類準備(7章)
- 2) 臨床研究実施までのプロセス(7章)
- 3) タイムライン内での組み入れの難しさ(9章)
- 4) 対象者募集について(9章)
- 5) 適格性確認、対象者登録(9章)
- 6) 同意撤回、対象者脱落、早期試験中止(9章)
- 7) 対象者コンプライアンスの管理方法(9章)

OUH-Elearn

- 1) 臨床研究者講習会：研究のプロセス。変更管理

【実施が望ましい演習（※単位数、時間には含めない）】

WBS の作成、クリティカル・パスの特定

備考	各プロセスに含まれる内容及び解説すべきことは以下の通りとする。 立ち上げのプロセスにおいては、プロトコールを実施するために実施医療機関で必要なことを特定する必要性があることについて、解説する。 計画のプロセスにおいては、プロトコールの目的と意義、評価方法、実施可能性などの適合性を確認する必要があることについても解説する。 実施のプロセスにおいては、対象者のリクルート、登録、ランダム化について、具体的な方法、難しさ等についても解説する。対象者の診察・評価の流れ、対象者の受診時の対応についても解説する。また、データに欠損値があった場合の欠測値の内容、対処方法、改善方法等についても解説する。
----	---

14	カテゴリーテーマ	研究行為/実践/実務	単位数	2						
	テーマ	研究のポジショニング、資金調達								
概要	研究者が実施しようとする研究が、症例報告、観察研究、介入研究の一連の仮説を探索し立案し検証する流れの中で、どのようなポジショニング（位置付け）にあるのかを受講者が理解できるようにする。研究のポジショニングに応じた研究に要する資金には、どのようなものがあり、概ねどの程度の資金が必要なのか、また資金源としてはどのようなものがあるのか、その取扱い方について、理解できるようにする。									
達成目標	受講者は、以下の目標を達成する。 ①仮説を証明するための研究方法として、症例報告、観察研究、介入研究があることを理解し、適切な研究方法を選択することが出来るようになる。 ②臨床研究の方法毎に想定される研究費の概算を理解し、自らが立案する臨床研究に必要な予算を見積ることが出来るようになる。また、研究資金源の種類や特徴を知り、資金調達の方法及びその取扱い方についても理解する。									
Key Words	臨床研究の基本的な流れ、ポジショニング、資金									
【講義項目】										
1. 研究方法 2. 自らの研究のポジショニング 3. 臨床研究の予算 4. 研究予算の見積もり方 5. 研究資金 6. 資金調達の方法										
参考資料： 1) Stephen B. Hulley, Steven R. Cummings, Warren S. Browner, Deborah G. Grady, Thomas B. Newman: Designing Clinical Research 4th edition. Wolters Kluwer, Lippincott Williams & Wilkins. 2013.										
参照できる E-learning： 慶應義塾大学病院臨床研究教育研修受講管理システム 1) 臨床研究入門（医学研究における倫理）										
CREDITS 1) 公的研究資金の取扱い方(2章)										
APRIN e ラーニングプログラム（eAPRIN） 1) 公的研究費の取扱い／Managing Public Research Funds_RCR										
OUH-Elearn 1) 臨床研究者講習会：臨床研究における外部委託、見積もり、契約										

15	カテゴリーテーマ	研究行為/実践/実務	単位数	1						
	テーマ	臨床研究の実行戦略・出口戦略								
概要	臨床研究の実行戦略としての臨床開発プラン（CDP：Clinical Development Plan）、出口戦略としてのターゲットプロダクトプロファイル（TPP：Target Product Profile）の位置づけ、作成の方法の基本について、解説する。									
達成目標	受講者は、以下の目標を達成する。 ①臨床開発プランの定義、作成目的、基本構造を理解し、作成方法の概略が理解できる。 ②TPPに基づいて、臨床開発プランを作成する基本的な方法について理解できる。									
Key Words	Clinical Development Plan、Target Product Profile									
【講義項目】										
1. 臨床開発プランの定義、作成目的、基本構造 2. 臨床開発プランの作成 3. Target Product Profile (TPP) とは 4. TPP の作成										
参考資料： 1) 塚本 淳, 阪下 喜治他：医薬品ターゲットプロダクトプロファイル設定・改訂と開発段階における事業性評価、売上予測（2018年） 2) AMED：研究マネジメントに関するチェック項目（医薬品）について（2020年） [https://www.amed.go.jp/content/000072392.pdf]										
参照できる E-learning：										

該当なし

16	カテゴリーテーマ	研究行為/実践/実務	単位数	1					
	テーマ	臨床研究における外部委託、見積もり、契約							
概要		アカデミック臨床研究機関（ARO：Academic Research Organization）や開発業務受託機関（CRO：Contract Research Organization）の役割や業務内容を紹介するとともに、臨床研究実施時に、専門的な特定の業務を ARO や CRO へ委託する際の手順や見積もりの取り方、契約の方法などの留意点について、解説する。							
達成目標		受講者は、以下の目標を達成する。 ①ARO の役割を理解できる。 ②CRO の役割を理解できる。 ③委託できる業務内容を理解できる。 ④契約を結ぶための手順や留意点を理解できる。 ⑤受講者が所属する医療機関において、契約に必要な手続きを理解できる。							
Key Words		ARO、CRO、委託、見積もり、契約							
【講義項目】									
1. ARO の役割 2. CRO の役割 3. 委託できる業務内容 4. 契約手順と留意点 5. 医療機関における契約の確認すべき留意点									
参考資料：									
1) アカデミアにおける医師主導治験のプロジェクトマネジメント.ARO 協議会プロジェクトマネジメント専門家連絡会（2015 年） 2) 古澤 康秀, 大室 弘美, 児玉 庸夫, 成川 衛: 医薬品開発入門 第 3 版. じほう. 2020									
参照できる E-learning :									
該当なし									

17	カテゴリーテーマ	研究行為/実践/実務	単位数	2					
	テーマ	臨床研究における研究チームの作り方、研究事務局機能、リーダーシップ、コミュニケーションマネジメント							
概要		臨床研究において、どのような研究のチーム体制を構築し、どのような準備を進めていくべきか、研究事務局※はどのように機能させるべきか、その際の研究責任（代表）医師の役割・責務、チーム内でどのようなコミュニケーションを図り、合意形成を進めて、臨床研究を実施していくかについて、解説する。 ※臨床研究の実施に関する事務及び支援を行う組織であり、例えば、臨床研究法で規定される調整管理実務担当者が行う業務などを執り行う							
達成目標		受講者は、以下の目標を達成する。 ①責任医師としての役割・責務を理解できる。 ②臨床研究の実施体制と場面に応じた関わる人々の役割を理解できる。 ③チームビルディングに必要な要素がわかり、連絡窓口の設置、ロードマップ、目標など情報共有の重要性を理解できる。							
Key Words		研究チーム、研究事務局、研究責任医師の責務、リーダーシップ、コミュニケーションマネジメント							
【講義項目】									
1. 責任医師の役割・責務 2. 臨床研究に関わる人々と役割 3. 責任医師と関わる人々のコミュニケーション場面									
参考資料：									
1) アカデミアにおける医師主導治験のプロジェクトマネジメント.ARO 協議会プロジェクトマネジメント専門家連絡会（2015 年）									
参照できる E-learning :									
ICR 臨床研究入門 1) 臨床研究における研究責任者の責務									

CROCO

- 1) 臨床試験の実施－1 (生命・医学系指針対応版)
- 2) 臨床試験の実施－2 (生命・医学系指針対応版)
- 3) 臨床研究実施のための体制・規程の整備 (生命・医学系指針対応版)

慶應義塾大学病院臨床研究教育研修受講管理システム

- 1) 臨床研究入門 (臨床研究概論、研究デザイン概説)
- 2) 臨床研究入門 (医学研究における倫理)
- 3) 臨床研究入門 (倫理指針のポイントとその実践)

CREDITS

- 1) 研究チームの適切な構成、役割、業務分担(8章)
- 2) コミュニケーションの重要性(7章)

OUH-Elearn

- 1) 臨床研究者講習会：臨床研究における研究チーム

備考	必要に応じて、試験の初回訪問日までに実施医療機関のチームが準備を整える必要がある活動を説明する
----	---

18	カテゴリーテーマ	研究行為/実践/実務	単位数	1		
	テーマ	各種規制当局等への報告、総括/終了報告書				
概要	臨床研究における研究事務局の重要性について、その役割、果たすべき責務について、解説する。また、特に重要な各種規制当局等との連絡や報告、総括/終了報告時に果たすべき役割について、具体的な解説を行う。					
達成目標	受講者は、以下の目標を達成する。 ①研究事務局の役割・責務を理解できる ②規制当局の役割を理解し、報告するべき事項を把握できる ③総括/終了報告時に記載する際の留意点、記載事項を理解できる					
Key Words	PMDA/厚生労働省への報告、総括報告書、終了報告					

【講義項目】

1. 研究事務局の役割・責務
2. 規制当局の役割
3. 規制当局に報告するべき事項
4. 総括/終了報告時に記載する際の留意点

参考資料：

- 1) レギュラトリー・ドクターズ：絶対に知るべき臨床研究の進め方. PMDA で得た研究者的心構え 48. メジカルビュー社. 2016
- 2) ICH-E3 ガイドライン「治験の総括報告書の構成と内容に関するガイドライン」1996
[<https://www.pmda.go.jp/int-activities/int-harmony/ich/0025.html>]
- 3) 「治験の総括報告書の構成と内容に関するガイドライン」に関する質疑応答集 (Q&A) (2012)
[<https://www.pmda.go.jp/int-activities/int-harmony/ich/0025.html>]

参照できる E-learning :

CROCO

- 1) 臨床研究実施のための体制・規程の整備 (生命・医学系指針対応版)

慶應義塾大学病院臨床研究教育研修受講管理システム

- 1) Feasible なプロトコール作成の留意点

CREDITS

- 1) 規制当局への書類、タイムライン (7章)
- 2) 試験終了時の活動(10章)

19	カテゴリーテーマ	研究行為/実践/実務	単位数	0.5
	テーマ	臨床研究における被験物、検体、各種資料の保管・管理		
概要	臨床研究で使用する医薬品等の被験物の管理の手順や方法、被験者の服薬コンプライアンス等の確認方法等について、解説する。 また、臨床研究時に発生する各種の検体・資料や書類（倫理審査委員会関連、原資料、同意書、各種報告関連の書類、その他、研究関連の書類）にどのようなものがあるか、どの			

	のような保管・管理がなされるべきかについて、解説する。
達成目標	<p>受講者は、以下の目標を達成する。</p> <p>①研究で使用する試験薬・機器の管理の手順や方法を理解し、その留意点を説明できる。</p> <p>②試験薬・機器に関する記録の重要性を理解し、関連する文書を適切に保管・管理する上での留意点を説明できる。</p> <p>③原資料と必須文書の違いを説明できる。</p> <p>④研究の準備計画・実施・終了の各段階でどのような文書が発生するか理解し、特定できる。</p> <p>⑤研究で発生した各記録や文書の報告、保管、管理の重要性について理解し、適切に実施する上での留意点を説明できる。</p>
Key Words	医薬品等管理手順書、研究関連書類の保管・管理
【講義項目】	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 試験薬・機器の管理の手順と方法 2. 原資料と必須文書 3. 研究で発生する文書の特定と保管・管理 	
参考資料 :	
<ol style="list-style-type: none"> 1) CREDITS 「10. 臨床試験の実施」 [https://www.uhcta.com/uth/member/] 2) アカデミアにおける医師主導治験のプロジェクトマネジメント.ARO 協議会プロジェクトマネジメント専門家連絡会 (2015 年) 3) ICH-E6 (R2) 	
参照できる E-learning :	
CROCO	
<ol style="list-style-type: none"> 1) 臨床試験の実施 – 1 (生命・医学系指針対応版) 	
慶應義塾大学病院臨床研究教育研修受講管理システム	
<ol style="list-style-type: none"> 1) 臨床研究入門 (臨床研究におけるモニタリングの計画と実践) 	
CREDITS	
<ol style="list-style-type: none"> 1) 試験薬、機器の管理(10 章) 2) 研究チームの役割(8 章) 	
OUH-Elearn	
<ol style="list-style-type: none"> 1) 臨床研究者講習会 : 臨床研究における被験物、検体、各種資料の保管・管理 	

20	カテゴリーテーマ	研究行為/実践/実務	単位数	1		
	テーマ	有害事象と疾病等報告				
概要		<p>臨床研究実施時に発生する有害事象、副作用、重篤度、重症度の定義及び因果関係の判定を継続的に行うことにより、リスクベネフィットバランスの適切な評価が可能になることについて、解説し、重篤な有害事象発生時における報告の手順等についての留意点について、解説する。</p> <p>その他、緊急時のエマージェンシーキーコードの開鍵や、緊急時の連絡先の周知、AED や救急カードなど必要な物品の整備・心肺蘇生訓練などの緊急対応のためのスタッフのトレーニング・緊急対応のための施設内マニュアルの整備などの想定される対応についても解説する。</p> <p>また、再生医療等安全性確保法、臨床研究法で定義される疾病等についてもふれ、有害事象との取扱いの違いについて、解説する。</p>				
達成目標		<p>受講者は、以下の目標を達成する。</p> <p>①有害事象、副作用、重篤度、重症度の定義及び因果関係の判定について理解し、説明できる。また、これらを継続的に行うことにより、リスクベネフィットバランスの適切な評価が可能になることについて理解する。</p> <p>②重篤な有害事象（疾病等）発生時、各規制要件に応じた報告の手順や留意点等を理解し、適切な様式を用いて報告出来る。</p> <p>③医療機器・再生医療等製品の不具合等の報告の手順や留意点等を理解し、適切な様式を用いて報告出来る。</p> <p>④エマージェンシーキーコードの管理と緊急時の盲検解除について理解し、説明できる。</p> <p>⑤研究に関与するスタッフの緊急時対応のトレーニングの必要性を理解する。</p>				
Key Words		有害事象、重篤な有害事象 (SAE)、疾病等、因果関係				

【講義項目】

1. 有害事象等の定義
2. 重篤な有害事象・疾病等発生時の対応と報告手順
3. 医療機器・再生医療等製品の不具合等の報告手順
4. 盲検解除

参考資料 :

- 1) CREDITS 「11. 安全性入門」 [<https://www.uhcta.com/uth/member/>]
- 2) 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針・ガイドンス
[<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/kenkyujigyou/ikenkyu/index.html>]
- 3) 臨床研究法・同施行規則 [<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000163417.html>]
- 4) 再生医療等の安全性の確保等に関する法律・同施行規則
[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/iryou/saisei_iryou/index.html]
- 5) 医薬品医療機器法に基づく副作用・感染症・不具合報告 (PMDA)
- 6) 臨床研究法に基づく疾病等報告 (PMDA)

参照できる E-learning :

CROCO

- 1) 臨床研究に関する法規制と指針2 (生命・医学系指針対応版)
- 2) 臨床試験の実施－2 (生命・医学系指針対応版)

慶應義塾大学病院臨床研究教育研修受講管理システム

- 1) 有害事象の理解を深めよう

CREDITS

- 1) 重篤な有害事象の判定、対応 (11 章)

OUH-Elearn

- 1) 臨床研究者講習会：有害事象と疾病等報告

21	カテゴリーテーマ	研究行為/実践/実務	単位数	1		
	テーマ	補償と賠償				
概要	臨床研究における補償と賠償の定義及びその違いについて、解説する。また、実際の補償、賠償における対応について、保険の加入、保険の種別、補償・賠償時の具体的な事例を解説し、その理解を深める。					
達成目標	受講者は、以下の目標を達成する。 ①健康被害に対する補償処置について理解できる。 ②補償責任と賠償責任の違いを説明できる。 ③補償保険の種別や内容を説明できる。 ④補償保険の内容を比較し、補償保険に加入できる。					
Key Words	補償、賠償、臨床研究保険					

【講義項目】

1. 健康被害に対する補償処置
2. 補償責任と賠償責任
3. 補償保険の種別と内容

参考資料 :

- 1) ICR 臨床研究入門 「臨床研究機関の体制整備講座」 [https://www.icrweb.jp/icr_index.php]
- 2) 被験者の健康被害補償に関するガイドライン (平成 30 年版、ver. 3.2) (医薬品企業法務研究会)
[https://www.ihoken.or.jp/htdocs/index.php?page_id=137]
- 3) 臨床研究における補償保険について：平成 29 年 11 月 30 日第 6 回臨床研究部会参考資料 8

参照できる E-learning :

ICR 臨床研究入門

- 1) 臨床研究保険の基礎知識と問題点

CROCO

- 1) 臨床研究実施のための体制・規程の整備 (生命・医学系指針対応版)

慶應義塾大学病院臨床研究教育研修受講管理システム

- 1) 臨床研究入門 (臨床研究におけるモニタリングの計画と実践)

CREDITS

1) 健康被害が発生した際の補償について(1章)

22	カテゴリーテーマ	研究行為/実践/実務	単位数	0.5		
	テーマ	研究機関における研究ガバナンス体制				
概要	研究機関において、研究に参加する被験者を保護するためにも、当該機関で実施されている研究がどのように把握されるべきか、高難度新規医療技術が当該機関内で実施される可能性も含めて、医療安全の観点からも、どのような管理がなされるべきかについて、解説する。					
達成目標	<p>受講者は、以下の目標を達成する。</p> <p>①実施医療機関における研究ガバナンス体制構築の重要性を理解し、実施医療機関の長に対し、有害事象報告や定期報告など、各規制要件に応じた必要な報告の手続きの仕方を説明できる。</p> <p>②実効的なガバナンス体制の構築・運用において、研究活動の不正行為に対する通報・相談窓口や、被検者・家族からの臨床研究に係る相談を受ける窓口等を設置することの意義を理解できる。</p> <p>③臨床研究における安全管理の重要性を理解し、自施設の医療安全管理体制について説明できる。</p> <p>④高難度新規医療技術や未承認新規医療品等による医療について、必要な基準や審査等の手続き、報告の手順等から適切に医療を提供できるまでの流れを理解し、説明できる。</p>					
Key Words	研究ガバナンス、研究公正窓口、臨床研究相談窓口、医療安全、高難度新規医療技術					
<p>【講義項目】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実施医療機関における研究ガバナンス体制の重要性 2. 臨床研究における医療安全管理体制 3. 高難度新規医療技術・未承認新規医療品等による医療について 						
<p>参考資料：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針・ガイドンス [https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/kenkyujigyou/index.html] 2) 臨床研究法・同施行規則 [https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000163417.html] 3) 医療法施行規則の一部を改正する省令（臨床研究中核病院関係）：平成 27 年厚生労働省 令第 38 号、平成 30 年厚生労働省令第 35 号、医政発 0330 第 35 号 4) 高難度新規医療技術：厚生労働省告示 246 号、医政発 0610 第 21 号 5) 未承認新規医薬品等を用いた医療：厚生労働省告示 247 号、医政発 0610 第 24 号 						
<p>参照できる E-learning :</p> <p>該当なし</p>						

23	カテゴリーテーマ	研究デザイン	単位数	1.5		
	テーマ	研究デザインの立案				
概要	臨床研究における研究デザインの立案について、研究コンセプトの検討やプロトコル作成時の留意点等を概説する。 臨床的な疑問（クリニカルクエスチョン：CQ）を PICO/PECO により構造化し、具体的かつ明確な研究形式（リサーチ・クエスチョン：RQ）に変換し、RQ を先行研究や FINER（もしくは FIRM ₂ NESSFINER）を確認することにより吟味する方法を中心に解説する。					
達成目標	<p>受講者は、以下の目標を達成する。</p> <p>①PICO/PECO について理解する。</p> <p>②FINER（もしくは FIRM₂NESSFINER）について理解する。</p> <p>③PubMed などの文献データベースを用いた文献検索方法について説明できる。</p>					
Key Words	PICO/PECO、FINER（もしくは FIRM ₂ NESSFINER）、文献検索					
<p>【講義項目】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. クリニカルクエスチョンを構造化する：PICO/PECO 2. リサーチ・クエスチョンを吟味する：FINER（もしくは、FIRM₂NESS） 3. 文献検索法 						
<p>参考資料：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 福原 俊一：臨床研究の道標第 2 版（全 2 卷） 健康医療評価研究機構. 2017 2) 木原雅子/木原正博（訳） 医学的研究のデザイン第 4 版- 研究の質を高める疫学的アプローチ - (Designing Clinical Research, 4th Edition). メディカル・サイエンス・インターナショナル. 2014 						

参照できる E-learning :

ICR 臨床研究入門

- 1) 臨床研究の基礎知識講座
- 2) プロトコール、論文

CROCO

- 1) プロトコルライティングセミナー：第1回「臨床研究をプロファイリングし、戦略を立てて、プロトコルを作成しよう！」
- 2) プロトコルライティングセミナー：第2回「クリニカルクエスチョン（CQ）を構造化して、リサーチクエスチョン（RQ）を明らかにして、プロトコル骨子を作ろう！」

【実施が望ましい演習（※単位数、時間には含めない）】

自らの CQ を PICO/PECO を用いて構造化し RQ に変換し、RQ を先行研究や FINER（もしくは FIRM₂NESS を確認して吟味することを実践する。

24	カテゴリーテーマ	研究デザイン	単位数	2		
	テーマ	研究で測定する因子/変数の設定、信頼性と妥当性の検証の方法				
概要	研究におけるアウトカム評価を行うために必要な因子/変数の種類、因数/変数の設定の仕方、設定した因子/変数の信頼性・妥当性の検証の仕方について、解説する。					
達成目標	受講者は、以下の目標を達成する。 ①primary outcome、secondary outcome について説明ができる。 ②測定データの種類（カテゴリカルデータ、量的データ）について説明ができる。 ③因果関係と相関関係の違いについて説明ができる。 ④原因（説明変数/独立変数）、結果（アウトカム/従属変数/目的変数）、交絡因子、中間因子について説明ができる。 ⑤測定データの信頼性と妥当性の検討の仕方について説明ができる。					
Key Words	因子/変数、交絡因子、中間因子、primary outcome、secondary outcome、true endpoint、surrogate endpoint					

【講義項目】

1. primary outcome と secondary outcome
2. 測定データの種類
3. 因果推論（偶然誤差、バイアス、交絡）
4. 原因（説明変数/独立変数）、結果（アウトカム/従属変数/目的変数）、交絡因子、中間因子
5. 測定データの信頼性と妥当性

参考資料 :

- 1) Duolao Wang, Ameet Bakhai: Clinical Trials: A Practical Guide to Design, Analysis, and Reporting. REMEDICA. 2006
- 2) 川村 孝: 臨床研究の教科書 研究デザインとデータ処理のポイント 第2版. 医学書院. 2020
- 3) 木原雅子訳, 木原正博訳: 医学研究のデザイン 研究の質を高める疫学的アプローチ 第4版. メディカル・サイエンス・インターナショナル. 2014

参照できる E-learning :

CROCO

- 1) 臨床研究の統計 – 1

慶應義塾大学病院臨床研究教育研修受講管理システム

- 1) 臨床研究入門（臨床研究概論、研究デザイン概説）

CREDITS

- 1) バイアスの除去について(5章)

OUH-Elearn

- 1) 臨床研究者講習会：研究で測定する因子/変数の設定

25	カテゴリーテーマ	研究デザイン	単位数	1
	テーマ	研究デザインの型、臨床試験の種類		

概要	一般的な研究デザインの型として、観察研究、介入研究をはじめとして、どのようなデザインがあるかを解説し、リサーチ・クエスチョン (RQ) にふさわしい型を選択するために知るべき知識を解説する。また、実用化研究を行う際には、治験が実施されることも鑑み、治験において、実施される試験の種類についても合わせて解説する。
達成目標	受講者は、以下の目標を達成する。 ①医学研究デザインの種類とその特徴について説明ができる。 ②わが国の実用化研究の種類（治験や先進医療 B など）や治験フェーズ（治験 PIII や非臨床試験など）の特徴について説明ができる。 ③介入研究において自らの RQ のポジショニングと、それにふさわしい臨床試験のデザインについて理解し、議論できる。
Key Words	観察研究、介入研究、治験、研究デザイン
【講義項目】	
1. 研究デザイン 2. わが国の実用化研究の種類と試験フェーズ	
参考資料：	
1) Duolao Wang, Ameet Bakhai: Clinical Trials: A Practical Guide to Design, Analysis, and Reporting. REMEDICA. 2006	
2) 川村 孝: 臨床研究の教科書 研究デザインとデータ処理のポイント 第2版. 医学書院. 2020	
3) 木原雅子訳, 木原正博訳: 医学研究のデザイン 研究の質を高める疫学的アプローチ 第4版. メディカル・サイエンス・インターナショナル. 2014	
参照できる E-learning： ICR 臨床研究入門: https://www.icrweb.jp/course/list.php	
1) 治療開発のための研究 2：非臨床試験 2) がん臨床試験のデザイン 3) 病気の原因を調べるための疫学研究 1,2	
慶應義塾大学病院臨床研究教育研修受講管理システム 1) 臨床研究入門（臨床研究概論、研究デザイン概説）	
CREDITS	
1) 試験デザイン(5章、10章) 2) ランダム化、盲検化(9章) 3) 介入研究と観察研究の違い(5章) 4) 開発フェーズについて(4章, 5章)	
OUH-Elearn 1) 臨床研究者講習会：研究デザインの型、臨床研究の種類	
【実施が望ましい演習（※単位数、時間には含めない）】 RQ-PICO 演習：RQ をつくり、そのポジショニングと、それにふさわしい臨床試験のデザインを選択する演習 計画書査読：他の研究者が作成した計画書を査読し、評価する演習	

26	カテゴリーテーマ	研究デザイン	単位数	1
	テーマ	統計解析手法の選択、サンプルサイズの設計		
概要	臨床研究における一般的な統計解析手法を紹介し、解析の目的、アウトカム変数の型に合わせて、検定が行われることを解説する。また、解析対象集団の設定（ITT の原則、FAS、PPS）についても説明する。交絡を制御するための方法として、ランダム化、層別化、マッチングの用い方についても解説する。また、選択された統計解析手法に合わせて、臨床研究に必要なサンプルサイズを設計する必要があることについても併せて、解説する。			
達成目標	受講者は、以下の目標を達成する。 ①臨床研究における一般的な統計解析手法の特徴を説明ができる。 ②交絡を制御するための方法として、ランダム化、層別化、マッチングについて説明ができる。 ③サンプルサイズ設計の意義とその手法の考え方について説明ができる。 ④おおまかなサンプルサイズ設計ができる。			
Key Words	統計解析、解析対象集団 (ITT の原則、FAS、PPS)、サンプルサイズ設計、ランダム化、層別化、マッチング			
【講義項目】				
1. 臨床研究における統計解析手法				

2. ランダム化、層別化、マッチング
3. サンプルサイズ設計

参考資料：

- 1) Duolao Wang, Ameet Bakhai: Clinical Trials: A Practical Guide to Design, Analysis, and Reporting. REMEDICA. 2006
- 2) 川村 孝: 臨床研究の教科書 研究デザインとデータ処理のポイント 第2版. 医学書院. 2020
- 3) 木原雅子訳, 木原正博訳: 医学研究のデザイン 研究の質を高める疫学的アプローチ 第4版. メディカル・サイエンス・インターナショナル. 2014

参照できる E-learning :

ICR 臨床研究入門: <https://www.icrweb.jp/course/list.php>

- 1) がん臨床試験のデザイン 《講師：水澤純基》
- 2) がん臨床試験の計画に必要な統計の基礎知識 ～ランダム化とサンプルサイズ～
- 3) サンプルサイズ計算の考え方

CROCO

- 1) 臨床研究の統計－1
- 2) 臨床研究の統計－2
- 3) 観察研究の統計・データマネジメント

慶應義塾大学病院臨床研究教育研修受講管理システム

- 1) 臨床研究入門 (生物統計学的留意点)

CREDITS

- 1) 統計学的記載：試験デザイン・研究対象集団について(5章)

OUH-Elearn

- 1) 臨床研究者講習会：サンプルサイズの設計

【実施が望ましい演習（※単位数、時間には含めない）】

統計ソフトを使用したサンプル設計のハンズオン演習

27	カテゴリーテーマ	研究デザイン	単位数	1
	テーマ	中間解析、独立データモニタリング委員会		
概要	あらかじめ計画して行う中間解析、当該研究の go/no go を判断するための独立データモニタリング委員会（効果安全性評価委員会）の運営の在り方など、研究をデザインする上での留意点について、解説する。			
達成目標	受講者は、以下の目標を達成する。 ①臨床試験における中間解析について説明ができる。 ②独立データモニタリング委員会（効果安全性評価委員会）の役割と運営について説明ができる。			
Key Words	中間解析、独立データモニタリング委員会（効果安全性評価委員会）			

【講義項目】

1. 中間解析
2. 独立データモニタリング委員会（効果安全性評価委員会）

参考資料：

- 1) Duolao Wang, Ameet Bakhai: Clinical Trials: A Practical Guide to Design, Analysis, and Reporting. REMEDICA. 2006
- 2) 川村 孝: 臨床研究の教科書 研究デザインとデータ処理のポイント 第2版. 医学書院. 2020
- 3) 木原雅子訳, 木原正博訳: 医学的研究のデザイン 研究の質を高める疫学的アプローチ 第4版. メディカル・サイエンス・インターナショナル. 2014
- 4) Phillip I. Good: A Manager's Guide to the Design and Conduct of Clinical Trials, 2nd Edition. WILEY. 2006

参照できる E-learning :

ICR 臨床研究入門

- 1) 中間解析の基礎と実際の運用

CROCO

- 1) 中間解析：計画・実施段階で留意すべきこと

慶應義塾大学病院臨床研究教育研修受講管理システム 1) 有害事象の理解を深めよう 2) 臨床研究入門（臨床研究におけるモニタリングの計画と実践）	
備考	独立データモニタリング委員会（効果安全性評価委員会）の役割に関しては、中間解析を必要としない研究においても設置されることがあり、その点に関しては説明する。

28	カテゴリーテーマ	品質マネジメントシステム	単位数	1
	テーマ	品質マネジメントシステム		
概要	品質マネジメントシステムの基本的な概念を説明し、品質方針の立て方を考えたうえで、どのような体制でデータマネジメント、モニタリング、監査などの臨床研究で行われる品質管理、品質保証の手法を決定していくかについて、解説を行う。			
達成目標	受講者は、以下の目標を達成する。 ①臨床試験における品質の概念を理解する。 ②データの信頼性の確保とその各手法について理解する。 ③品質マネジメントシステムの体系を理解し、品質方針、品質管理計画を策定できるようになる。 ④品質向上のための Preventive Action、Corrective Action について検討できる。			
Key Words	品質マネジメントシステム、品質方針			

【講義項目】

1. 臨床試験と品質、GCP 改訂 (ICH-E6(R2)) の方向性
2. Quality Management System
3. Risk Management と Issue Management
4. 品質管理と品質保証活動

参考資料：

- 1) 「臨床試験における QMS の実装に向けた実践的な取り組み」（製薬協）
- 2) ICH-E6(R2)
- 3) 小宮山靖: GCP 刷新 (GCP Renovation) のインパクト. 医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス. Vol. 48 No. 5 (2017) [https://www.pmrj.jp/publications/02/pmdrs_topics/topic48-5_GCP_renovation.pdf]

参照できる E-learning :

ICR 臨床研究入門

- 1) GCP リノベーション：準備を始めないと間に合いませんよ

CROCO

- 1) 品質管理・品質保証（生命・医学系指針対応版）

慶應義塾大学病院臨床研究教育研修受講管理システム

- 1) 臨床研究入門（臨床研究におけるモニタリングの計画と実践）
- 2) 臨床研究入門（データマネジメントの手法）

CREDITS

- 1) 品質マネジメントシステムの重要性(12 章)
- 2) 品質マネジメントシステムの各要素・品質保証と品質管理(12 章)

OUH-Elearn

- 1) 臨床研究者講習会：データマネジメント

備考	治験においては、設定される品質が規制当局により行われる査察（実地調査）に耐えうるものかどうかという観点で行われ、モニタリングや監査と違うということについても解説する。
----	---

29	カテゴリーテーマ	品質マネジメントシステム	単位数	1
	テーマ	SOP (Standard Operating Procedure)		
概要	臨床研究業務において、様々な立場・役割の者がその責任に応じて、実施すべき手順をその時期、タスクを明らかにする位置づけの文書であることについて解説し、各種の業務で作成される必要があることについても言及する。			
達成目標	受講者は、以下の目標を達成する。 ①SOP の概念と必要性を説明できる。 ②SOP の種類、作成時期、明らかにする必要のあるタスク項目を理解する。			

	③臨床研究に必要なSOPを作成できる、もしくは作成委託することができる。 ④SOPの運用例を知り、臨床試験に合わせて必要なSOPが設定されることを理解する。 ⑤臨床試験に必要なSOPを準備することができる。 ⑥SOPを運用することができる。
Key Words	SOP
【講義項目】	
1. SOPの概念と必要性 2. GCPの要求事項の整理とSOPの整備 3. 臨床試験の信頼性を保証する手段としてのSOP 4. 臨床試験関連SOPの一般的構成と臨床試験管理の手順書例	
参考資料： 1) 改正GCPのガイドラインについての一部改正等について第15条の2	
参照できるE-learning： CREDITS 1) 手順書とは(10章)	

30	カテゴリーテーマ	品質マネジメントシステム	単位数	1		
	テーマ	データマネジメント				
概要	臨床試験のデータフロー、及び、試験全体の品質管理を考慮したデータ収集・管理について解説し、品質マネジメントにおけるデータマネジメントの役割について学ぶ。					
達成目標	受講者は、以下の目標を達成する。 ①臨床試験におけるデータの流れについて理解する。 ②データの質を低下させる原因(データ不備とデータエラー)とその対策について理解する。 ③データチェックの方法(マニュアルチェック、ロジカルチェック)の違いについて理解する。 ④品質管理の方法として出口管理とプロセス管理の違い、そして、データマネジメントの品質管理について、ISO9000シリーズの考え方を交え理解する。 ⑤データ標準について理解する。 ⑥コーディングについて理解する。					
Key Words	データマネジメント、CRF、EDC、プロセス管理					
【講義項目】						
1. 臨床試験におけるデータの流れ 2. データ不備とデータエラー 3. データチェック 4. データマネジメントにおける品質管理 5. データ標準 6. コーディング						
参考資料： 1) 大橋 靖雄、辻井 敦: 臨床試験データマネジメント-データ管理の役割と重要性. 医学書院. 2004 2) 製薬協医薬品評価委員会資料 クリニカルデータマネージャの今後の役割 クリニカルデータマネージャのキャリアデザインのために [http://www.jpma.or.jp/medicine/shinyaku/tiken/allotment/pdf/clinical_manager.pdf]						
参照できるE-learning： ICR臨床研究入門 1) 新しい倫理指針に基づくモニタリング・監査の実践						
CROCO 1) 観察研究の統計・データマネジメント 2) データマネジメント-1 3) データマネジメント-2						
慶應義塾大学病院臨床研究教育研修受講管理システム 1) 臨床研究入門(データマネジメントの手法) 2) 臨床研究入門(臨床研究におけるモニタリングの計画と実践) 3) 臨床研究入門(臨床研究概論、研究デザイン概説)						

CREDITS

- 1) 品質マネジメントシステムの各要素・品質保証と品質管理(12章)
- 2) データ管理の重要性、業務(12章)
 - ・ データ、情報源について、
 - ・ CRF の作成、修正について
 - ・ データの欠損を防ぐ方法(10章)

3 1	カテゴリーテマ	品質マネジメントシステム	単位数	1		
	テーマ	モニタリング、監査				
概要	<p>モニタリングを実施する者（モニター）の役割、各種のモニタリング手法（On-site/Off-site/中央モニタリング、Risk Based Approach [RBA]）や使い分け、データの直接閲覧（Source Document Verification）など、その実際にについて、解説する。</p> <p>ALCOA 原則（Attributable[帰属や責任の所在が明確であること], Legible[判読・理解可能であること], Contemporaneous[遅滞のないこと], Original[原本であること], Accurate[正確であること]）に則った原資料作成がなされたうえで、各種のモニタリングが成立しうることに關しても解説する。</p> <p>また、監査に關しても、監査の種類（システム監査、臨床試験毎の監査）、監査におけるCAPA（Corrective Action[是正措置], Preventive Action[再発予防措置]）の実行についても解説を行う。</p>					
達成目標	<p>受講者は、以下の目標を達成する。</p> <p>①モニタリングの目的を理解し、モニタリング担当者の役割と業務を理解する。</p> <p>②RBA の観点から、対象となる臨床研究のリスク評価（リスクの特定・分析・決定）を行うことができる。</p> <p>③モニタリング手順書、モニタリングに必要な資料（チェックリスト等）を準備し、モニタリングの実施または適切なモニターの指名ができる。</p> <p>④監査の目的を理解し、監査担当者の役割と業務を理解する。</p> <p>⑤監査手順書、監査に必要な資料（チェックリスト等）を準備し、監査の実施または適切な監査担当者の指名ができる。</p>					
Key Words	モニタリング、モニタリング手法、ALCOA、監査、CAPA、Risk Based Approach(RBA), Risk Assessment and Categorization Tool (RACT)					
<p>【講義項目】</p> <ol style="list-style-type: none">1. 臨床研究のモニタリング2. 臨床研究の監査						
<p>参考資料：</p> <ol style="list-style-type: none">1) 橋渡し研究戦略的推進プログラム 拠点間ネットワーク モニタリング～臨床研究の信頼性確保～ [http://www.mextnw.hosp.tohoku.ac.jp/handouts/002/wp/rm]2) 日本医師会治験促進センター 治験・臨床研究のモニタリング計画書等に関する成果物 [http://www.jmacct.med.or.jp/information/monitoring.html]3) 日本医師会治験促進センター 治験・臨床研究のクオリティマネジメントプランの策定に関する成果物 [http://www.jmacct.med.or.jp/information/qualitymanagement.html]4) 厚生労働科学研究費補助金医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業『治験活性化に資するGCPの運用等に関する研究』班 臨床試験のモニタリングと監査に関するガイドライン [http://www.jscpt.jp/press/2015/150601press_release.html]5) 日本QA研究会「医師主導治験における監査マニュアル」「臨床研究の監査手順書・手順書ガイド」及び「臨床研究の監査マニュアル」(Ver.20180313) [https://www.jsqa.com/seikabutsu/open/gcp_bukai/c-4-b_20180323/]6) 日本QA研究会「医師主導治験用チェックリスト及び臨床研究用チェックリスト」(Ver.20180322) [https://www.jsqa.com/seikabutsu/open/gcp_bukai/151218-2/]7) 日本QA研究会「実施医療機関におけるこれからの品質管理－リスクに基づく取組みの視点から－」(2020年3月版) [https://www.jsqa.com/seikabutsu/open/gcp_bukai/c-4-a-rba_20180308/]8) 日本QA研究会「臨床研究法の監査チェックリスト」(Ver.20200305) [https://www.jsqa.com/seikabutsu/open/gcp_bukai/c3c_20200305/]9) 厚生労働省医薬・生活衛生局医薬品審査管理課長通知「リスクに基づくモニタリングに関する基本的考え方について」(薬生薬審発 0705 第 7 号 令和元年 7 月 5 日)						
<p>参照できる E-learning :</p> <p>ICR 臨床研究入門</p> <ol style="list-style-type: none">1) 臨床試験のモニタリングと監査2) 臨床研究の品質保証（監査の立場から）－より高い品質と信頼性を保証するために－						

CROCO

- 1) 品質管理・品質保証（生命・医学系指針対応版）
- 2) リスクベーストモニタリングと中央モニタリングその1：方法論編
- 3) リスクベーストモニタリングと中央モニタリングその2：実践編
- 4) 臨床試験の「質」とモニタリング

慶應義塾大学病院臨床研究教育研修受講管理システム

- 1) 臨床研究入門（データマネジメントの手法）
- 2) 臨床研究入門（臨床研究におけるモニタリングの計画と実践）

CREDITS

- 1) 監査と査察の結果とその対処の説明について(12章)

OUH-Elearn

- 1) 臨床研究者講習会：モニタリング、監査

【実施が望ましい演習（※単位数、時間には含めない）】

- 1) モニタリング手順書の作成
- 2) モニタリングに必要な資料の作成
- 3) モニタリングの実施と報告書作成、または適切なモニターの指名
- 4) 監査手順書の作成
- 5) 監査に必要な資料の作成
- 6) 監査の実施と報告書作成、または適切な監査担当者の指名

3 2	カテゴリーテーマ	研究の実例（成功例、失敗例、緊急時の対応、巨大地震等の自然災害、コロナウイルス等感染症発生時の対応）	単位数	1		
	テーマ	臨床試験実施に際しての留意点等について（研究の実例を用いて、成功例・失敗例、巨大地震等の自然災害、コロナウイルス等感染症発生時の対応を紹介するので、タイトルは都度変更される）				
概要		臨床研究における成功例や失敗例、巨大地震等の自然災害、コロナウイルス等感染症発生時の対応など、臨床研究を実践的に進める上で、参考になるであろう実例を解説し、臨床研究で押さえるべき点について、理解が進むような講義を行う。				
達成目標		受講者は、臨床研究の成功例や失敗例、巨大地震等の自然災害、コロナウイルス等感染症発生時の対応を参考として、自らの今後の研究に活かせるようになる。				
Key Words		成功実例、失敗実例、巨大地震等の自然災害、コロナウイルス等感染症発生時の対応				
【講義項目】 具体例毎に項目は変わりうる						

参考資料：

- 1) 「臨床研究・治験における大規模災害時の対応指針」平成25年度厚生労働科学研究費補助金（医療技術実用化総合研究事業）臨床研究・治験における大規模災害時の対応指針の作成に関する研究班
[<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisaku-0000042986.pdf>]

参照できる E-learning：

該当なし

3 3	カテゴリーテーマ	その他	単位数	1		
	テーマ	臨床研究への患者・市民参画				
概要		臨床研究における患者・市民参画に関して、患者・市民の視点を取り入れる意義、患者・市民参画の基本を解説し、患者・市民参画の進め方の概要を解説する。				
達成目標		受講者は、患者・市民参画の意味、意義を理解し、基本的な知識を習得し、臨床研究における患者・市民参画の実践が出来るようになることを目標とする。				
Key Words		患者・市民参画 (PPI: Patient Public Involvement)				

【講義項目】

1. 患者・市民参画の意義
2. 患者・市民参画の実践例
3. 患者・市民参画の実践

参考資料：

1) AMED PPI ガイドブック [<https://wwwAMED.go.jp/content/000055212.pdf>]

参照できる E-learning :

該当なし